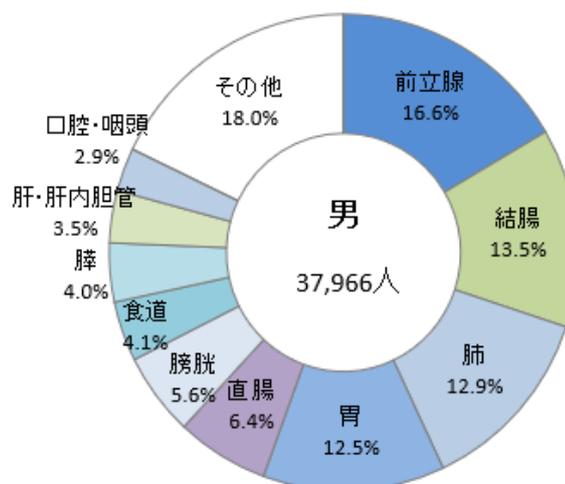


## II. 神奈川のがん（2020年）

### 1. がんのり患

#### (1) 2020年のがんのり患

順位	男	り患数
1	前立腺	6,285
2	結腸	5,129
3	肺	4,915
4	胃	4,762
5	直腸	2,423
6	膀胱	2,140
7	食道	1,548
8	膵	1,516
9	肝・肝内胆管	1,346
10	口腔・咽頭	1,119
11	その他	6,783
	合計	37,966



順位	女	り患数
1	乳房	7,478
2	結腸	3,837
3	子宮	3,002
4	肺	2,515
5	胃	2,067
6	膵	1,419
7	直腸	1,379
8	卵巣	879
9	皮膚	824
10	悪性リンパ腫	792
11	その他	5,514
	合計	29,706

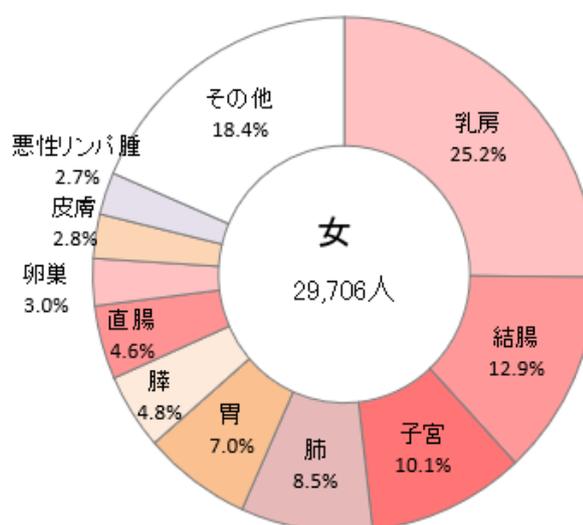


図4 悪性新生物登録部位別り患の比較 - 2020年 -

令和4年度の神奈川県悪性新生物登録事業では、概要の4. 事業実施状況で報告している登録票と令和3年の死亡票の処理を行ったほか、2020年の悪性新生物（以下「がん」と称す）のり患、死亡状況についての集計・解析を行った。集計対象年が2年前の「2020年」であるのは、概要の6. り患算定方法の項で説明した理由に依っている。

2020年の本県のがんのり患者は、67,672人（男37,966人、女29,706人）であった。そのうち県下の医療機関からの届出によって登録されたのは、64,496人（95.3%）、死亡票により確認されたものが3,176人（4.7%）であった。り患数は2019年と比較すると5,334人の減少（男3,409人、女1,925人）であった。

がんの部位別割合をみると（図4）、男で最も多いのは前立腺で6,285人（16.6%）、次いで結腸5,129人（13.5%）、肺4,915人（12.9%）、胃4,762人（12.5%）、直腸2,423人（6.4%）、膀胱2,140人（5.6%）、食道1,548人（4.1%）、膵1,516人（4.0%）、肝・肝内胆管1,346人（3.5%）、口腔・咽頭1,119人（2.9%）、その他6,783人（18.0%）の順であった。女で最も多かったのは乳房7,478人（25.2%）、次いで結腸3,837人（12.9%）、子宮3,002人（10.1%）、肺2,515人（8.5%）、

胃 2,067 人 (7.0%)、膵 1,419 人 (4.8%)、直腸 1,379 人 (4.6%)、卵巣 879 人 (3.0%)、皮膚 824 人 (2.8%)、悪性リンパ腫 792 人 (2.7%) その他 5,514 人 (18.4%) の順であった。2019 年のり患割合と比較すると、男では膵、膀胱、肺、口腔・咽頭の割合が、女では膵、子宮、乳房、肝・肝内胆管の割合が増加し、男の胃、結腸、直腸、女の結腸、胃、甲状腺は減少している。

人口 10 万人あたりの粗り患率は男 836.9、女 648.3、2019 年は男 913.7、女 692.1 であり、男女とも減少している。また、年齢調整り患率(標準人口は世界人口一付表 34-を用いた)は男 296.9、女 270.1、2018 年は男 329.2、女 290.6 であり、男女ともに減少している。主要部位別のり患数、粗り患率、年齢調整り患率は(付表 1、2、3)に掲載した。

## (2) 主要部位別り患割合

がんは、わが国において昭和 56 年より死因の第一位であり、令和 5 年には年間約 38 万人が亡くなり、4 人にひとりががんで死亡している。さらに、生涯リスクは約 2 人に 1 人ががんになるとされている(令和 5 年版厚生労働白書より)。

がんのり患について経年的にがんの死亡やり患を部位別に細かく観察すると、性別、年齢別に少しずつ変化していることがわかる。

表 5 は 2019-2020 年(2 年間)と 10 年前の 2009-2010 年(2 年間)の主要部位別、性別のり患数、り患割合、性比を比較したものである。2019-2020 年の男のり患数 79,395 人、女のり患数は 61,373 人であり、10 年前の 2009-2010 年の男のり患数は 56,113 人、女のり患数は 39,597 人で、男女ともり患数の増加がみられる。

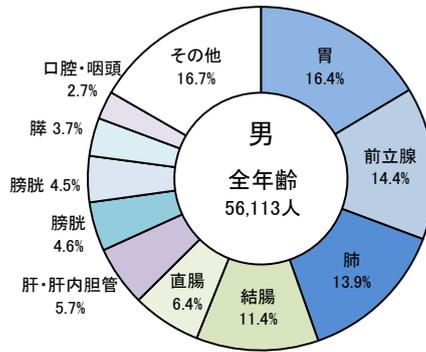
図 5 より、部位別の構成割合をみると、男は胃が 16.4%から 13.0%へ肝・肝内胆管が 5.7%か

表 5 主要部位・性別・り患数およびり患の割合と性比

部位	ICD-10	2009年-2010年					2019年-2020年				
		男(M)		女(F)		性比 M/F	男(M)		女(F)		性比 M/F
		数	%	数	%		数	%	数	%	
全部位	C00-C96,D06	56,113	100.0	39,597	100.0	1.4	79,395	100.0	61,373	100.0	1.3
口腔・咽頭	C00-C14	1,487	2.7	546	1.4	2.7	2,250	2.8	926	1.5	2.4
食道	C15	2,438	4.3	447	1.1	5.5	3,265	4.1	737	1.2	4.4
胃	C16	9,187	16.4	3,897	9.8	2.4	10,319	13.0	4,423	7.2	2.3
結腸	C18	6,414	11.4	4,962	12.5	1.3	10,950	13.8	8,094	13.2	1.4
直腸	C19-C20	3,618	6.4	1,996	5.0	1.8	5,199	6.5	2,877	4.7	1.8
肝・肝内胆管	C22	3,180	5.7	1,538	3.9	2.1	2,764	3.5	1,237	2.0	2.2
胆のう・胆管	C23-C24	1,253	2.2	1,057	2.7	1.2	1,502	1.9	1,149	1.9	1.3
膵	C25	2,012	3.6	1,713	4.3	1.2	3,032	3.8	2,798	4.6	1.1
喉頭	C32	514	0.9	29	0.1	17.7	535	0.7	61	0.1	8.8
肺	C33-C34	7,797	13.9	3,466	8.8	2.2	10,178	12.8	5,170	8.4	2.0
骨	C40-C41	56	0.1	40	0.1	1.4	65	0.1	51	0.1	1.3
皮膚	C43-C44	802	1.4	713	1.8	1.1	1,860	2.3	1,779	2.9	1.0
前立腺	C61	8,055	14.4	-	-	-	13,173	16.6	-	-	-
乳房	C50	45	0.1	8,760	22.1	-	99	0.1	15,401	25.1	-
子宮	C53-C55,D06	-	-	3,306	8.3	-	-	-	6,139	10.0	-
卵巣	C56	-	-	1,432	3.6	-	-	-	1,806	2.9	-
膀胱	C67	2,590	4.6	742	1.9	3.5	4,325	5.4	1,228	2.0	3.5
白血病	C91-C95	774	1.4	497	1.3	1.6	1,049	1.3	660	1.1	1.6

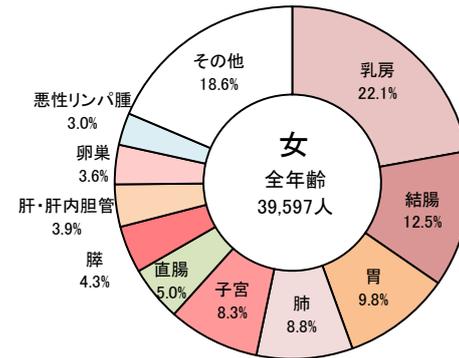
2009-2010年

順位	男	り患数
1	胃	9,187
2	前立腺	8,055
3	肺	7,797
4	結腸	6,414
5	直腸	3,618
6	肝・肝内胆管	3,180
7	膀胱	2,590
8	食道	2,438
9	膵	2,012
10	口腔・咽頭	1,487
11	その他	9,335
	合計	56,113



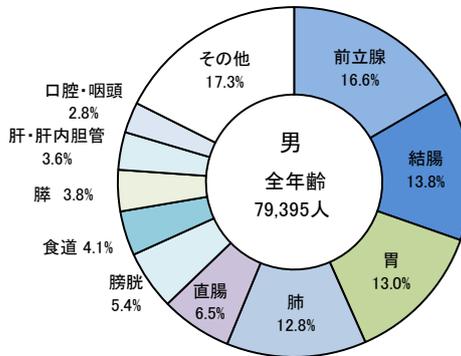
2009-2010年

順位	女	り患数
1	乳房	8,760
2	結腸	4,962
3	胃	3,897
4	肺	3,466
5	子宮	3,306
6	直腸	1,996
7	膵	1,713
8	肝・肝内胆管	1,538
9	卵巣	1,432
10	悪性リンパ腫	1,169
11	その他	7,358
	合計	39,597



2019-2020年

順位	男	り患数
1	前立腺	13,173
2	結腸	10,950
3	胃	10,319
4	肺	10,178
5	直腸	5,199
6	膀胱	4,325
7	食道	3,265
8	膵	3,032
9	肝・肝内胆管	2,764
10	口腔・咽頭	2,250
11	その他	13,940
	合計	79,395



2019-2020年

順位	女	り患数
1	乳房	15,401
2	結腸	8,094
3	子宮	6,139
4	肺	5,170
5	胃	4,423
6	直腸	2,877
7	膵	2,798
8	卵巣	1,806
9	皮膚	1,779
10	悪性リンパ腫	1,616
11	その他	11,270
	合計	61,373

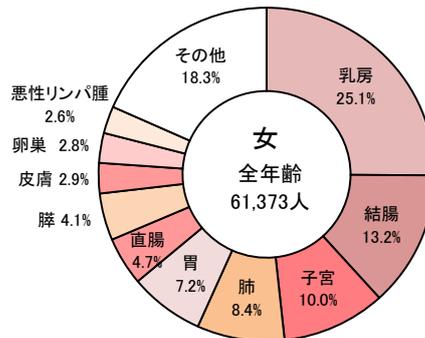


図5 がんの部位別り患割合の比較

ら 3.5%へ、女は胃が 9.8%から 7.2%へと大きく減少している。また、肝・肝内胆管も男同様に 3.9%から 2.0%へと減少している。胃、肝・肝内胆管の減少とは逆に、男では結腸や前立腺の割合が大きく増加した。特に前立腺は 14.4%が 16.6%となり、り患順位では 2 位が 1 位となった。女では、乳房、子宮、皮膚の割合が増加している。

また、女を 1 とした場合の男の比（性比）をみると、ほとんどの部位で男が高く、喉頭、食道、膀胱でその差も大きくなっている。

2009-2010 年の部位別のり患数を 1 とすると、10 年後の 2019-2020 年は、男では皮膚が 2.3 倍、結腸および膀胱が 1.7 倍に増えている。女では皮膚が 2.5 倍、喉頭が 2.1 倍、子宮が 1.9 倍に増えている。

### (3) 年齢階級別り患割合

がんの部位別り患割合は性別により異なるように、年齢階級にも違いが観察されている。図 6-1、6-2 は 2019-2020 年の 2 年間の合計り患数を 0-14 歳、15-39 歳、40-64 歳、65 歳以上の 4 年齢階級に分け、男女別に主要部位別り患割合を図示したものである。

0-14 歳の 2019-2020 年のり患数は男 121 人、女 103 人である。主要部位をみると、男女ともに白血病、脳などが高い割合を占めている。また、白血病以外は成人のがんではあまりみられない部位構成をしている。

15-39 歳をみると、男のり患数は 875 人、女のり患数は 2,768 人で女が 1,893 人多い。り患数の多い部位をみると、男では、精巣、白血病、結腸、悪性リンパ腫、直腸の順で、女では、子宮、乳房、甲状腺、卵巣の順で高い割合を占めている。り患数は女の方が多く、性別によりり患の部位が異なっている。

40-64 歳では、男のり患数は 14,158 人、女のり患数は 18,859 人である。男は、結腸、直腸、前立腺、肺、胃の順に、女は乳房、子宮、結腸、卵巣、直腸の順にり患割合が高い。また 40-64 歳の男のがんり患数は、男の総り患数の 17.7%を、40-64 歳の女のがんり患数は、女の総り患数の 30.5%を占めている。

65 歳以上の男のり患数は 64,908 人、女 40,161 人である。男は前立腺が、女は乳房のり患割合が最も高く、次いで男は胃、肺、結腸の順に、女は結腸、肺、胃の順に高い。65 歳以上の男のがんり患数は、男の総り患数の 81.1%を、65 歳以上の女のがんり患数は、女の総り患数の 64.9%を占めている。

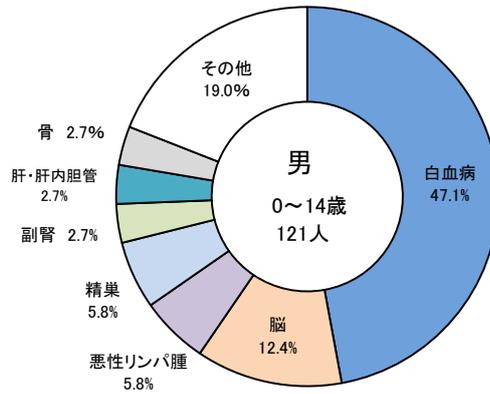
男では、40-64 歳で結腸、直腸のり患数が多く、65 歳以上では前立腺、胃、肺のり患数が多くなっている。女では、40-64 歳で乳房、子宮、結腸のり患数が多く、65 歳以上では乳房、結腸、肺のり患数が多くなっている。また、男の 65 歳以上に前立腺がんが増えてきている。

40 歳以上の男のり患数は、男の総り患数の 98.8%を、40 歳以上の女のり患数は、女の総り患数の 95.4%を占めている。

がんり患の部位別り患数やり患割合は、性別、年齢階級別に異なり、さらに地域による違いや経年の変化も観察されている（付表 2、8、19、21 参照）。

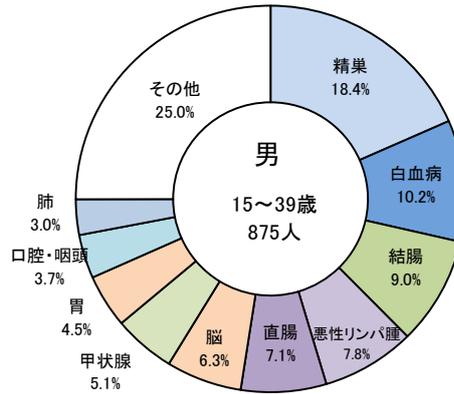
0～14歳

順位	男	り患数
1	白血病	57
2	脳	15
3	悪性リンパ腫	7
3	精巣	7
5	副腎	4
5	肝・肝内胆管	4
5	骨	4
8	その他	23
	合計	121



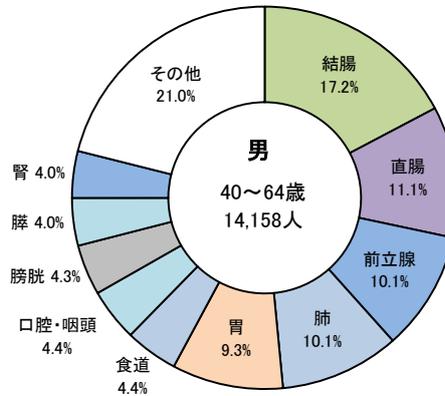
15～39歳

順位	男	り患数
1	精巣	161
2	白血病	89
3	結腸	79
4	悪性リンパ腫	68
5	直腸	62
6	脳	55
7	甲状腺	45
8	胃	39
9	口腔・咽頭	32
10	肺	26
11	その他	219
	合計	875



40～64歳

順位	男	り患数
1	結腸	2,441
2	直腸	1,573
3	前立腺	1,427
4	肺	1,423
5	胃	1,322
6	食道	630
7	口腔・咽頭	628
8	膀胱	604
9	脾	569
10	腎	560
11	その他	2,981
	合計	14,158



65歳以上

順位	男	り患数
1	前立腺	11,867
2	胃	9,046
3	肺	8,818
4	結腸	8,520
5	膀胱	3,745
6	直腸	3,597
7	食道	2,666
8	脾	2,467
9	肝・肝内胆管	2,284
10	口腔・咽頭	1,613
11	その他	10,285
	合計	64,908

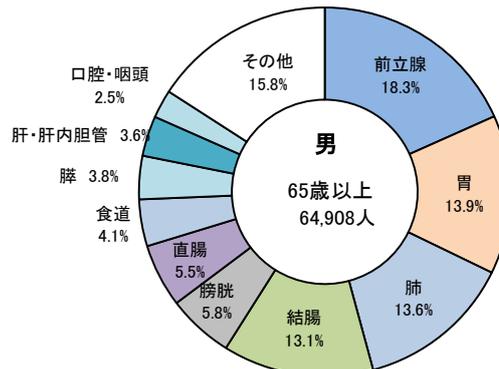
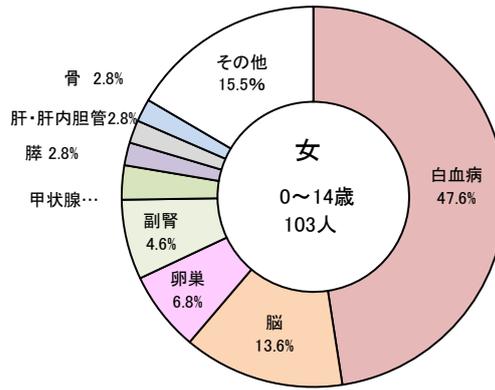


図6-1 リ患の年齢階級別、部位別比較

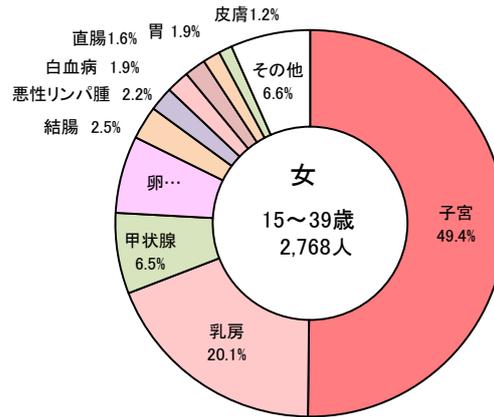
0～14歳

順位	女	り患数
1	白血病	49
2	脳	14
3	卵巣	7
3	副腎	7
5	甲状腺	3
6	膝	2
7	肝・肝内胆管	2
7	骨	2
9	その他	17
	合計	103



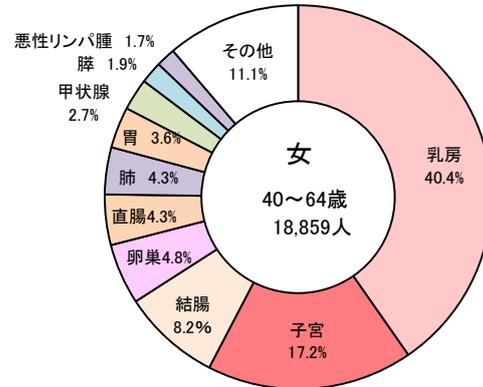
15～39歳

順位	女	り患数
1	子宮	1,389
2	乳房	524
3	甲状腺	187
4	卵巣	179
5	結腸	77
6	悪性リンパ腫	56
7	白血病	53
8	直腸	49
9	胃	40
10	口腔・咽頭	31
11	その他	183
	合計	2,768



40～64歳

順位	女	り患数
1	乳房	7,610
2	子宮	3,253
3	結腸	1,558
4	卵巣	965
5	直腸	802
6	肺	747
7	胃	654
8	甲状腺	504
9	膝	349
10	悪性リンパ腫	306
11	その他	2,111
	合計	18,859



65歳以上

順位	女	り患数
1	乳房	7,396
2	結腸	6,523
3	肺	4,434
4	胃	3,757
5	膝	2,462
6	直腸	2,051
7	子宮	1,552
8	皮膚	1,496
9	悪性リンパ腫	1,270
10	肝・肝内胆管	1,117
11	その他	8,103
	合計	40,161

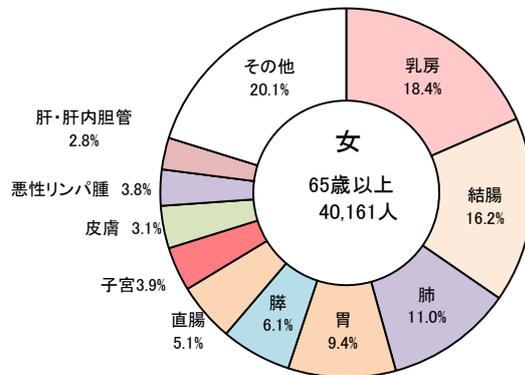


図6-2 り患の年齢階級別、部位別比較  
—女— 2019-2020年

#### (4) 主要部位の年齢階級別り患割合

2019–2020年のり患数より、部位別、性別、5歳毎の年齢階級別のり患割合を図7-1、7-2、7-3に示した。ほとんどのがんは40歳頃より増加し、65–75歳頃が最も高い割合を占めていることがわかる。年齢階級別にみると、乳房は最も高い割合を占める年齢が45–49歳である。女性では、胃、肝・肝内胆管、膵、皮膚、膀胱は85歳以上でも高い割合を占めている。

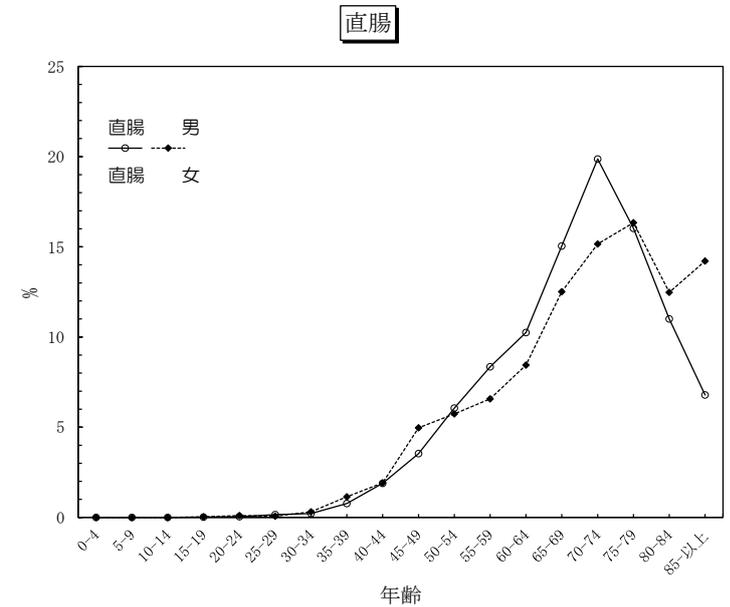
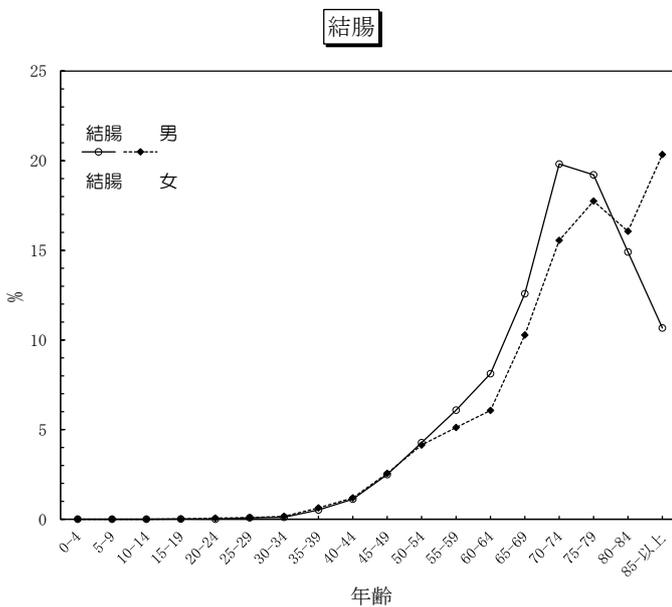
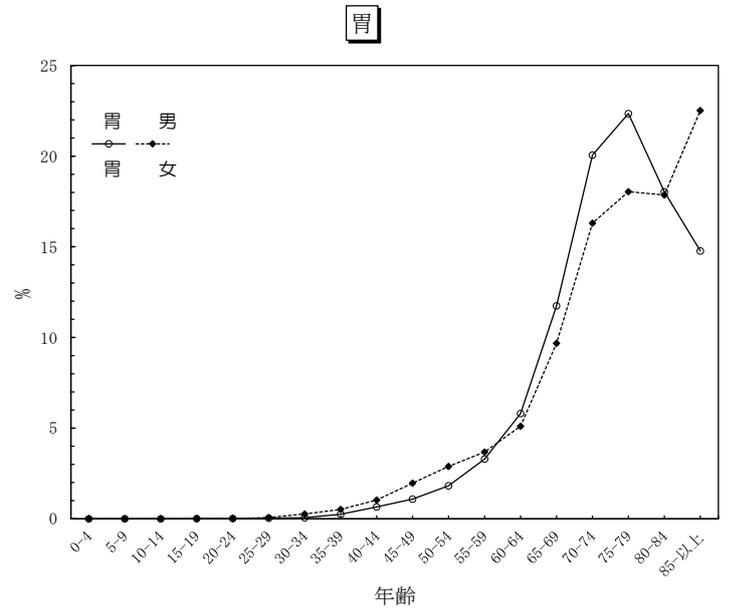
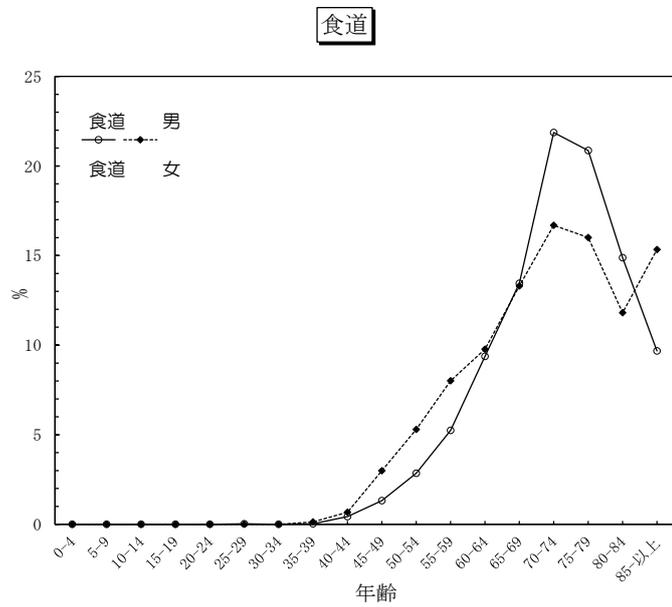
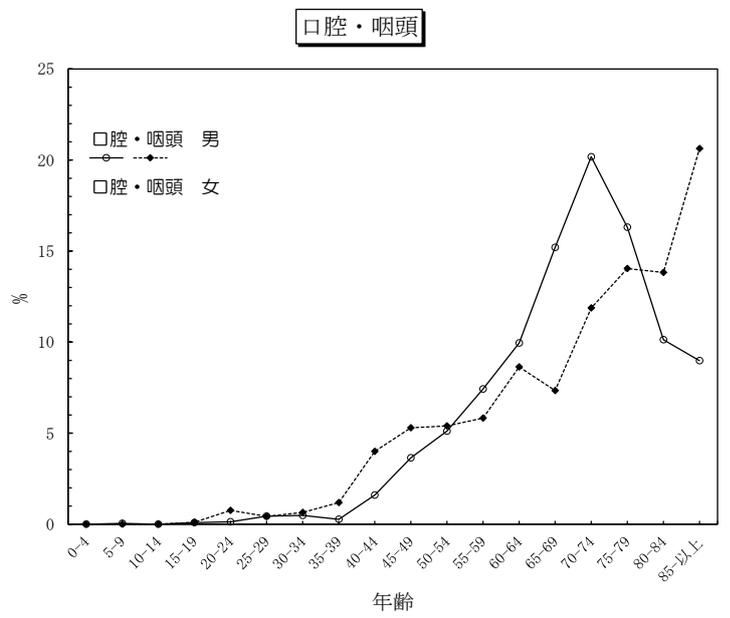
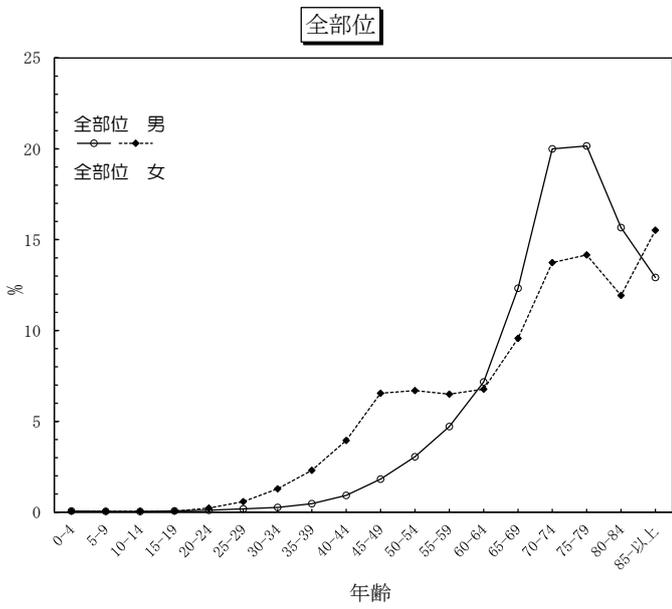
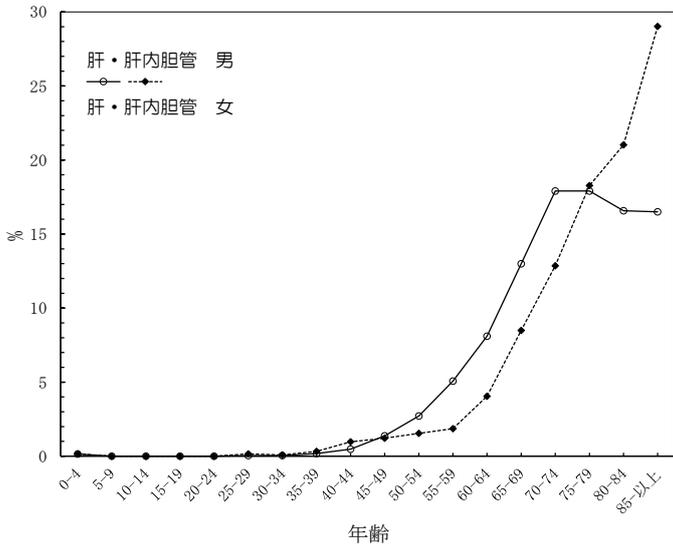
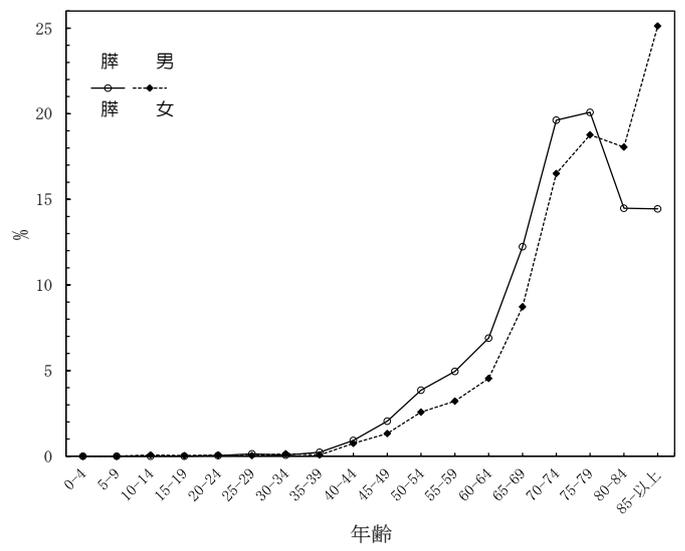


図7-1 部位別、年齢階級別り患割合 (%) (2019-2020年)

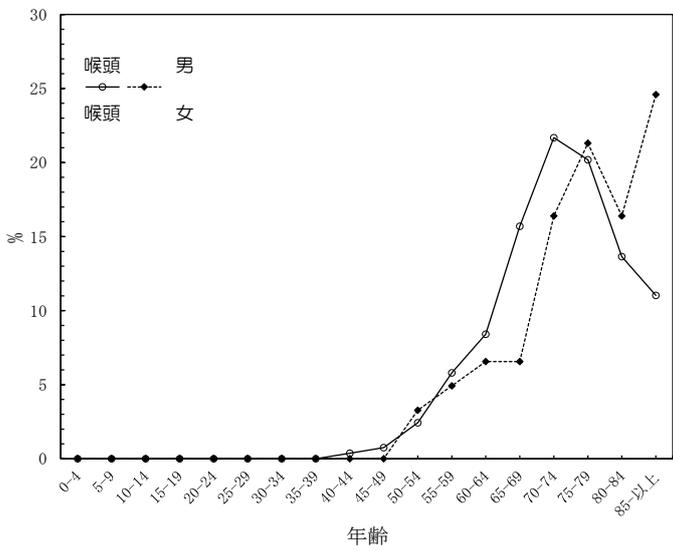
肝・肝内胆管



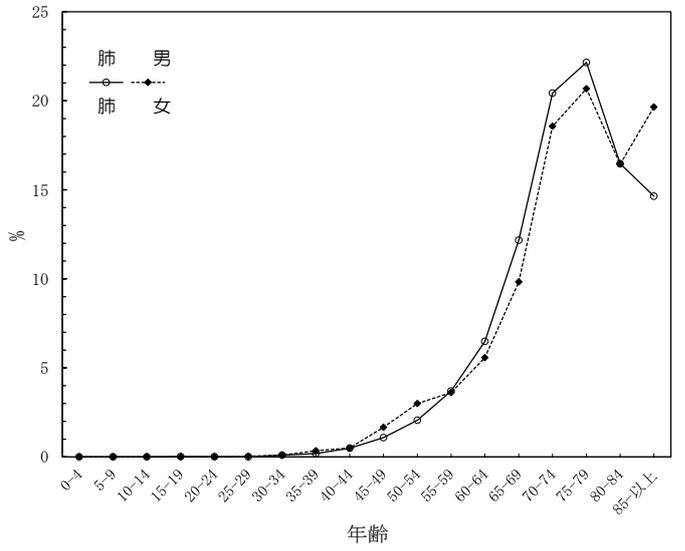
膵



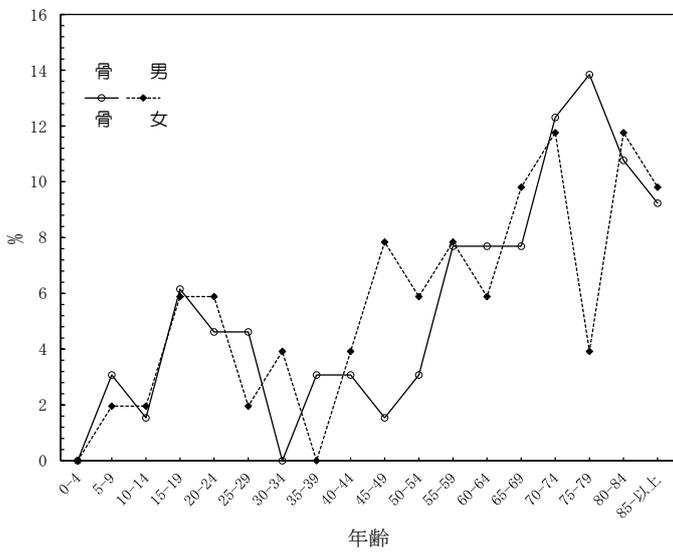
喉頭



肺



骨



皮膚

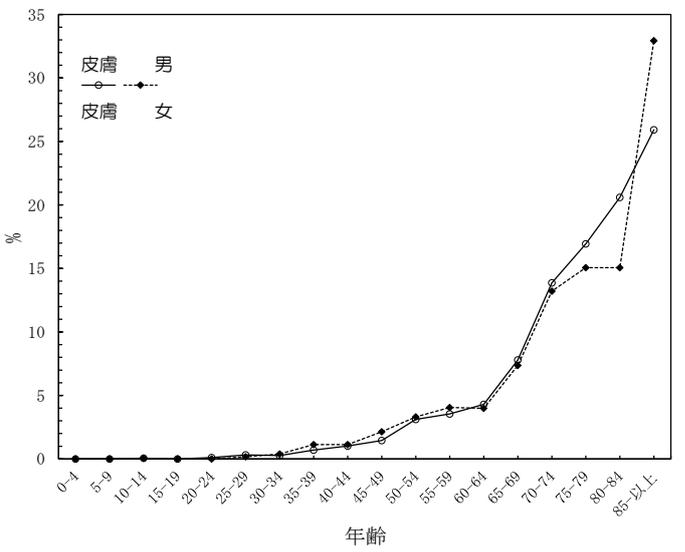
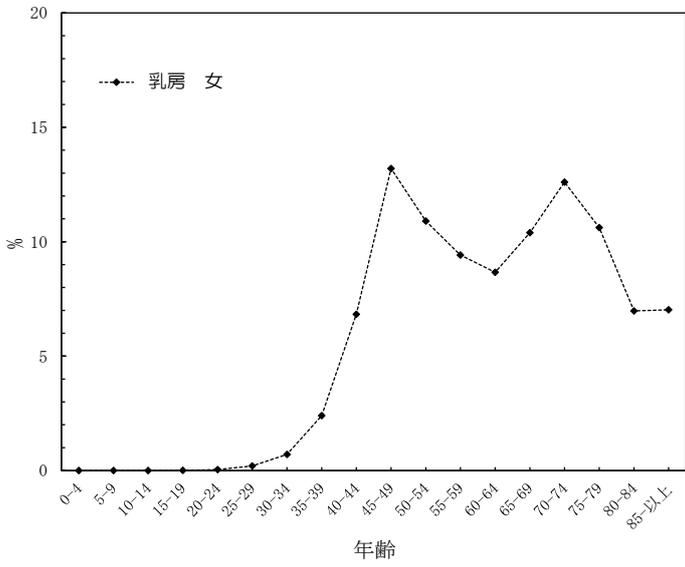
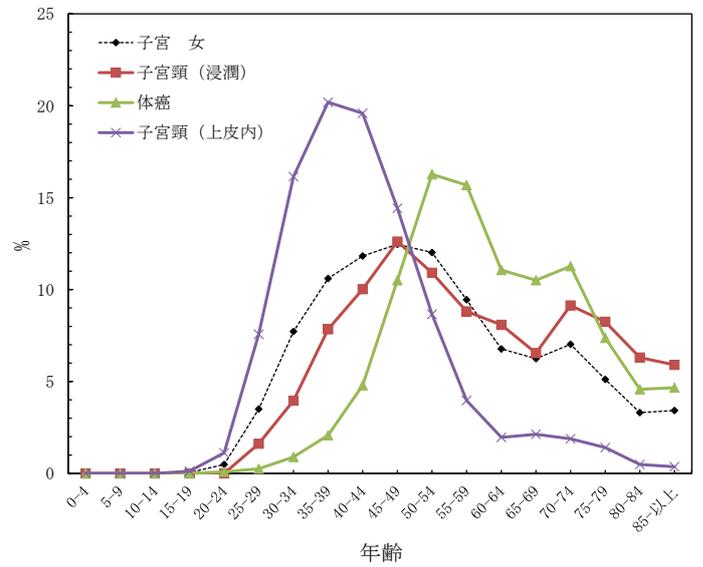


図7-2 部位別、年齢階級別り患割合 (%) (2019-2020年)

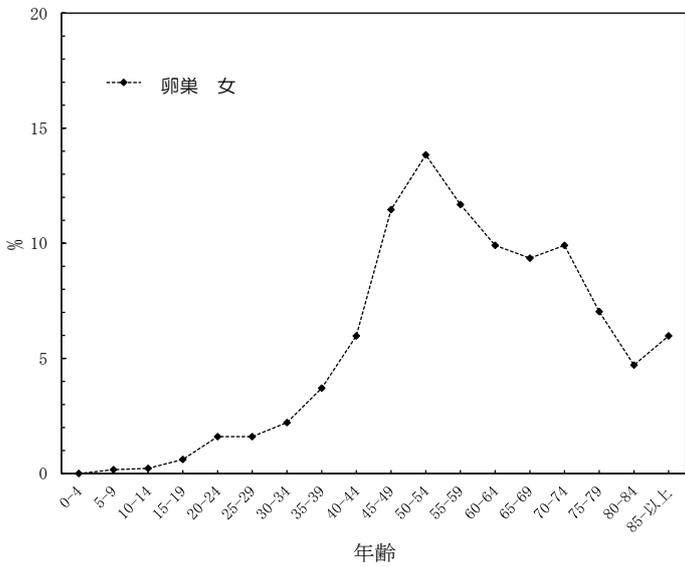
乳房



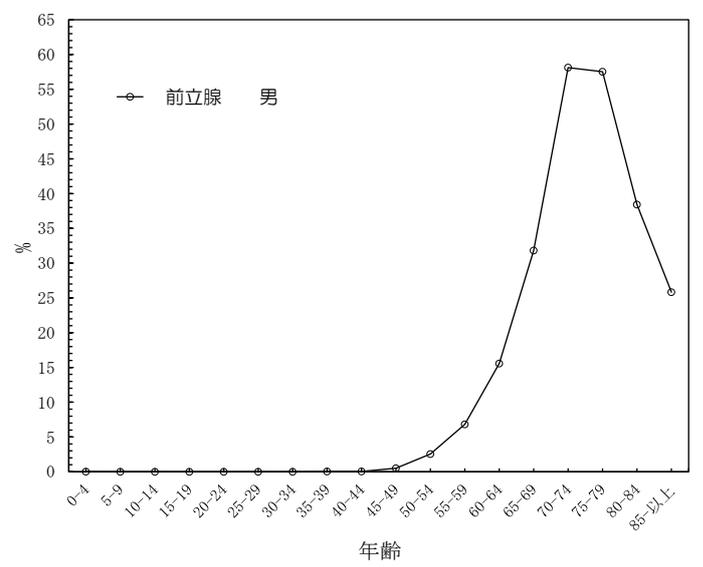
子宮



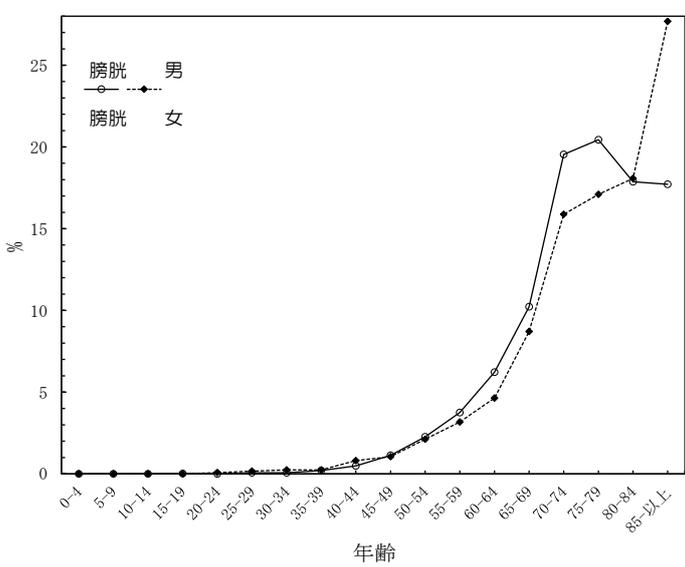
卵巣



前立腺



膀胱



白血病

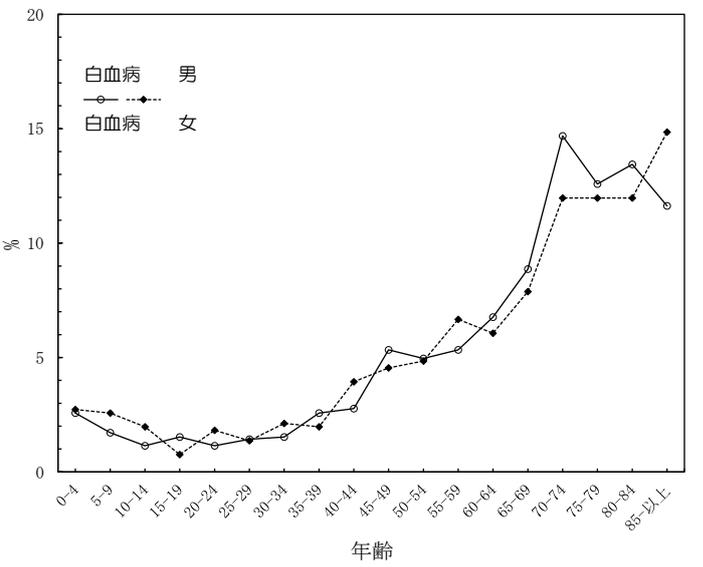


図 7-3 部位別、年齢階級別り患割合 (%) (2019-2020年)

## 2. 地域とがん

### (1) 地域区分

神奈川県を11の二次保健医療圏ブロックに分け、がんの部位別のり患率を観察した。地域区分は図8に示し、それぞれに含まれる市区町村は下表にのせた。

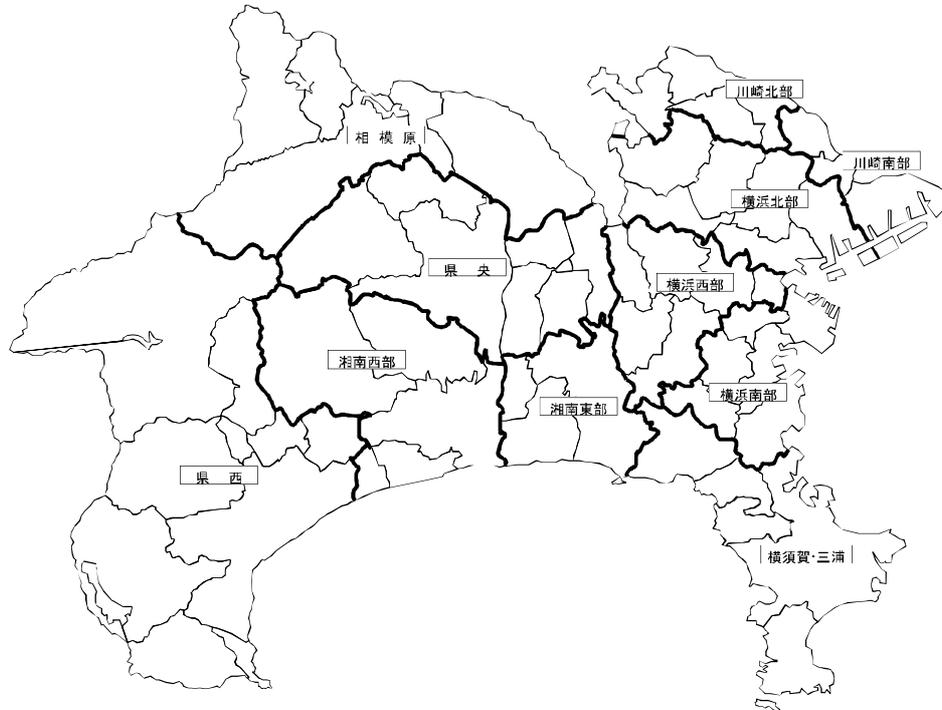
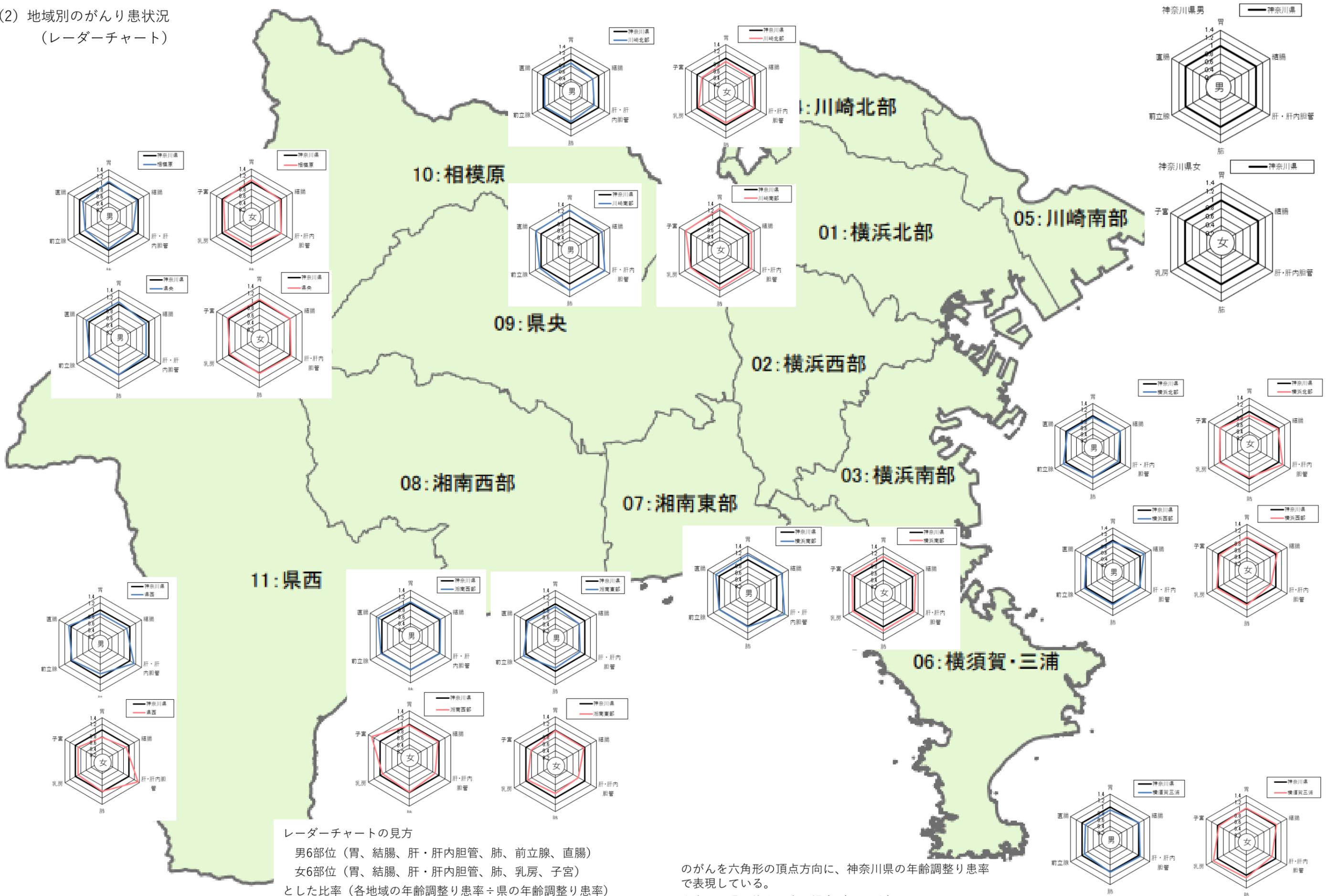


図8 地域区分

二次保健医療圏名と構成市区町村名

二次保健医療圏名	市区町村名
横浜北部	鶴見区、神奈川区、港北区、緑区、青葉区、都筑区
横浜西部	西区、保土ヶ谷区、旭区、戸塚区、泉区、瀬谷区
横浜南部	中区、南区、港南区、磯子区、金沢区、栄区
川崎北部	高津区、宮前区、多摩区、麻生区
川崎南部	川崎区、幸区、中原区
横須賀・三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
湘南東部	藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町
湘南西部	平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町、二宮町
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村
相模原	相模原市
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町
計 (11圏域)	19市13町1村

(2) 地域別のがんり患状況  
(レーダーチャート)



レーダーチャートの見方

男6部位 (胃、結腸、肝・肝内胆管、肺、前立腺、直腸)  
 女6部位 (胃、結腸、肝・肝内胆管、肺、乳房、子宮)  
 とした比率 (各地域の年齢調整り患率÷県の年齢調整り患率)  
 各頂点 (破線部分) は県の年齢調整り患率と等しい場合 (比率が1.0)  
 頂点より外側へ、低い場合 (1.0以下) は内側へくる。

のがんを六角形の頂点方向に、神奈川県の前年齢調整り患率で表現している。

を表し、県平均より高い場合 (1.0以上) は

図9 地域別のがんのり患マップ (2019-2020)

### (3) がんのり患マップ



図 10 がんり患マップ市区町村地図

神奈川県内の各市区町村別に部位別年齢調整り患率（2019－2020 年）を計算し、り患率の高いところより濃淡で 4 段階に分類して作図した。また図中の 4 段階の分類の基準のり患率と神奈川県の年齢調整り患率（人口 10 万対の値）を県平均として、図 11 にのせた。濃い色になるに従って年齢調整り患率が高くなっている。

全部位で高いり患率を示したところは、男は川崎市川崎区、女は横浜市南区であった。り患率の低いところは、男は清川村、女は箱根町であった。

り患率は、届出の精度との関係があるため、届出の精度も併せてみる必要がある。

主要部位については図 11-1 から図 11-14 までに図示している。

図 11 では各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（10 万人対、世界人口モデルで調整）について最小値、第 1 四分位数、中央値、第 3 四分位数、最大値で区切り、4 種類で塗り分けた。

図11-1 全部位（男）

年齢調整り患率 2019-2020年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2019-2020年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

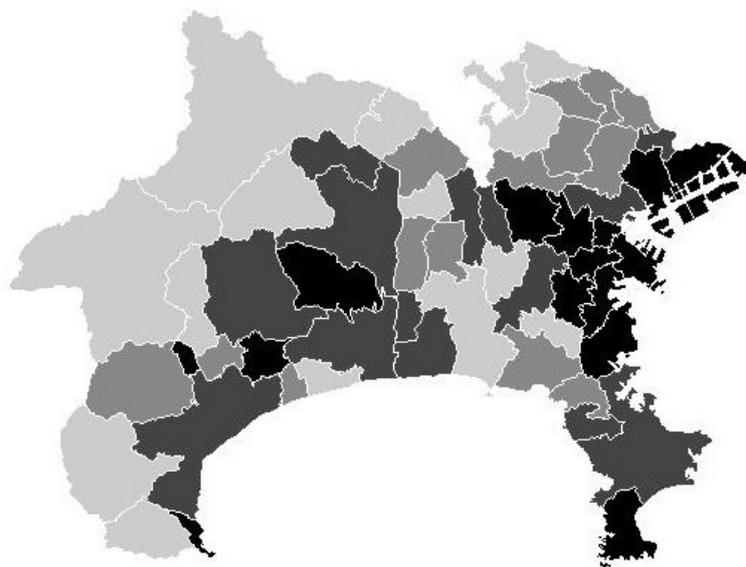
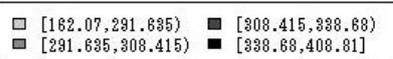


図11-2 全部位（女）

年齢調整り患率 2019-2020年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2019-2020年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

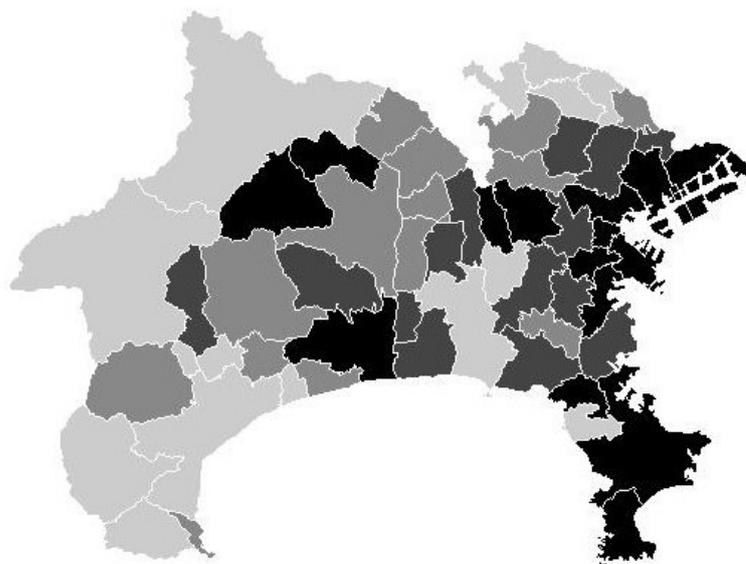


図11-3 胃（男）

年齢調整り患率 2019-2020年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2019-2020年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

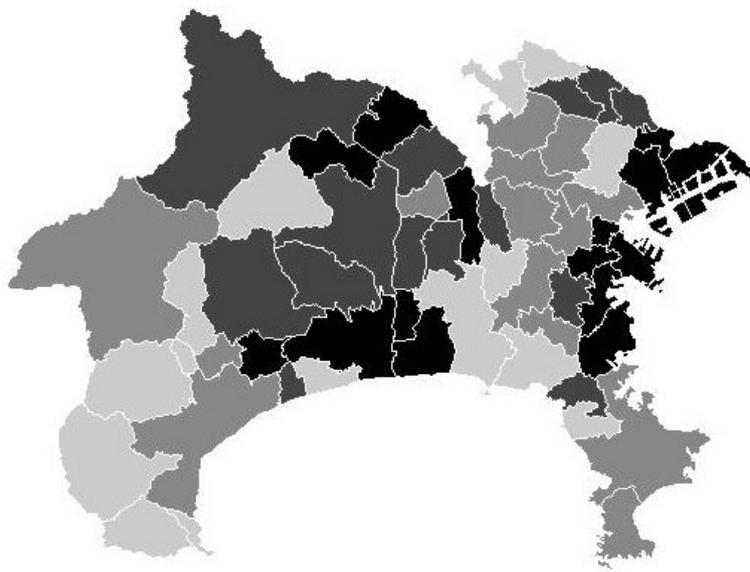
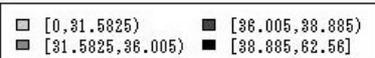


図11-4 胃（女）

年齢調整り患率 2019-2020年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2019-2020年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

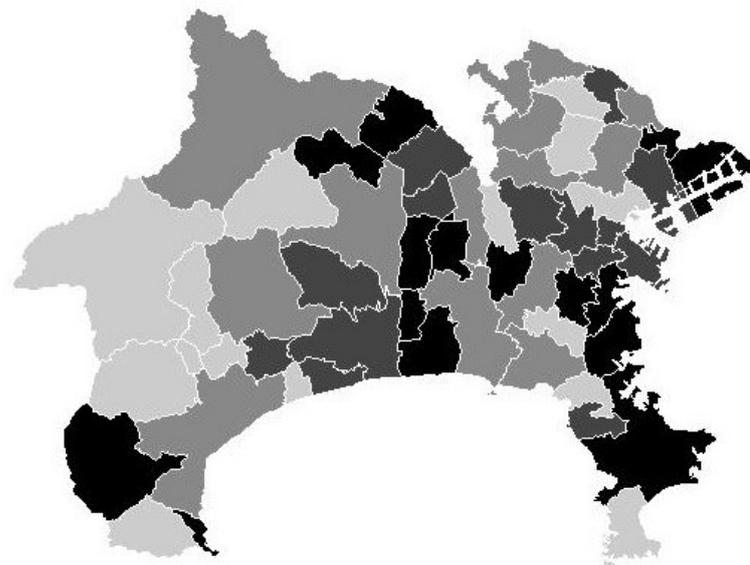
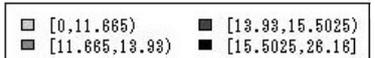


図11-5 結腸（男）

年齢調整り患率 2019-2020年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2019-2020年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

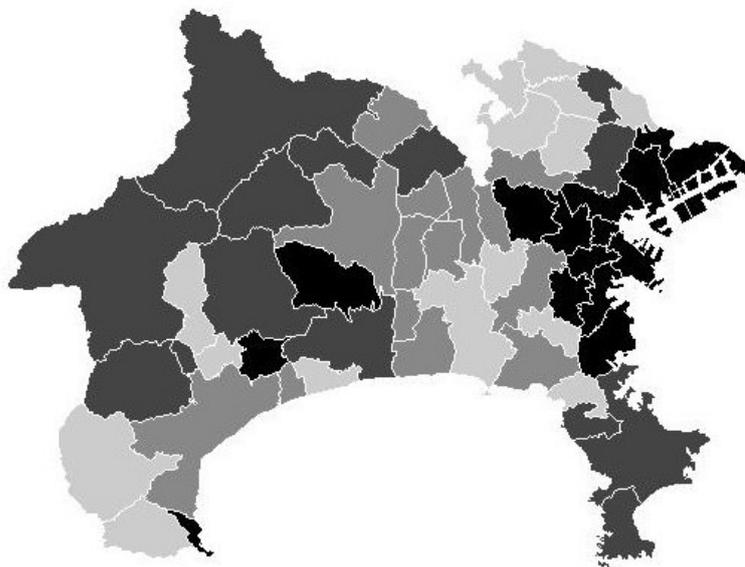
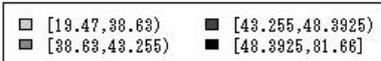


図11-6 結腸（女）

年齢調整り患率 2019-2020年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2019-2020年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

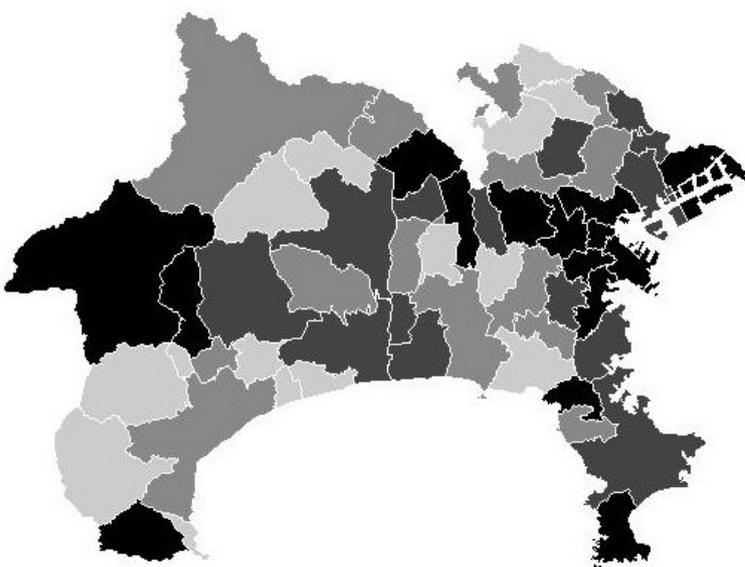
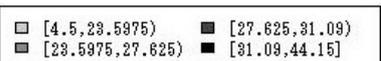


図11-7 肝・肝内胆管（男）

年齢調整り患率 2019-2020年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2019-2020年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

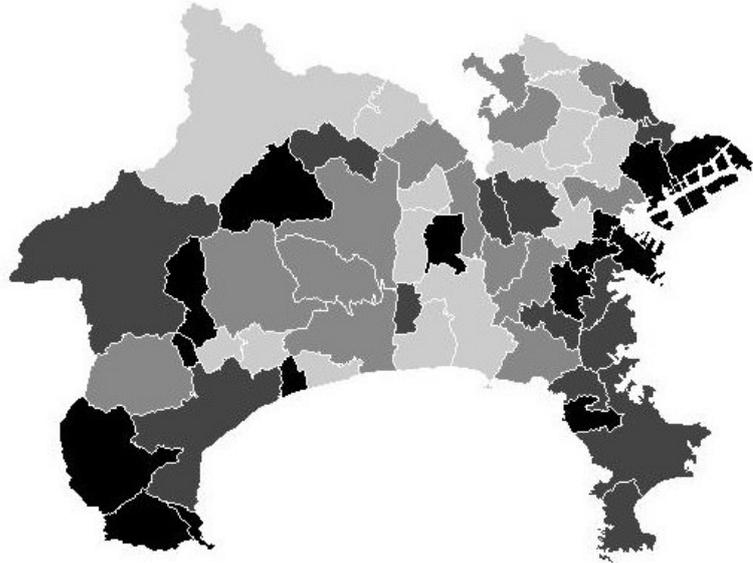
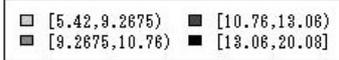


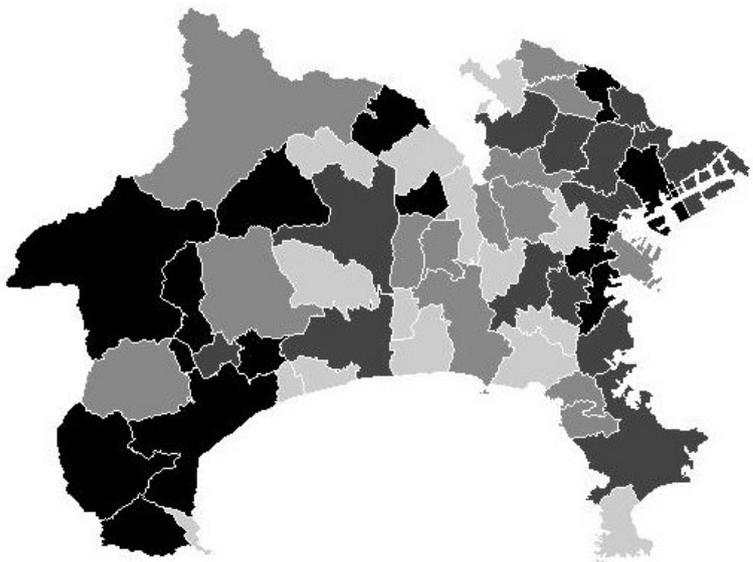
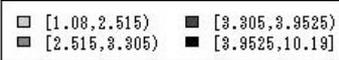
図11-8 肝・肝内胆管（女）

年齢調整り患率 2019-2020年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2019-2020年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。



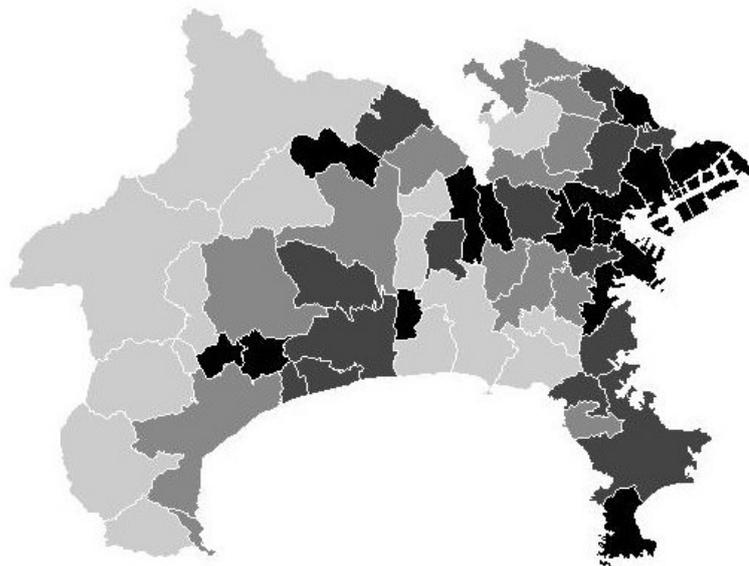
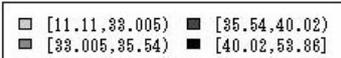
### 図11-9 肺（男）

年齢調整り患率 2019-2020年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2019-2020年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。



### 図11-10 肺（女）

年齢調整り患率 2019-2020年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2019-2020年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

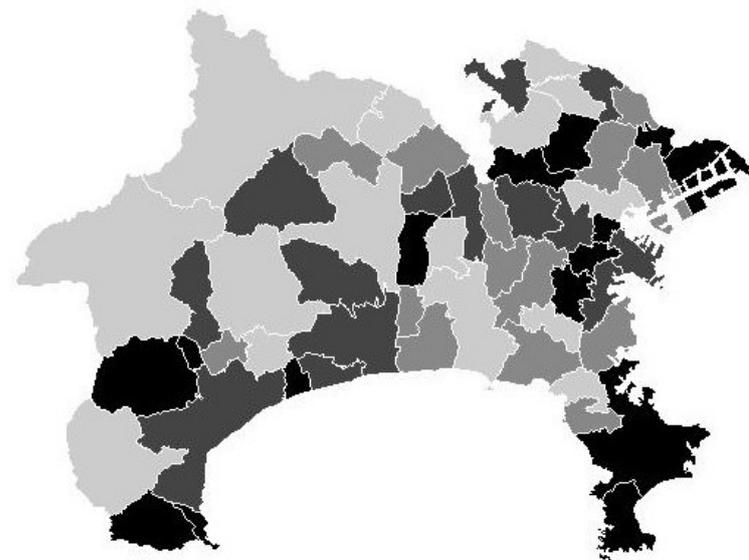
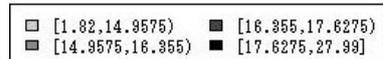


図11-11 前立腺（男）

年齢調整り患率 2019-2020年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2019-2020年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

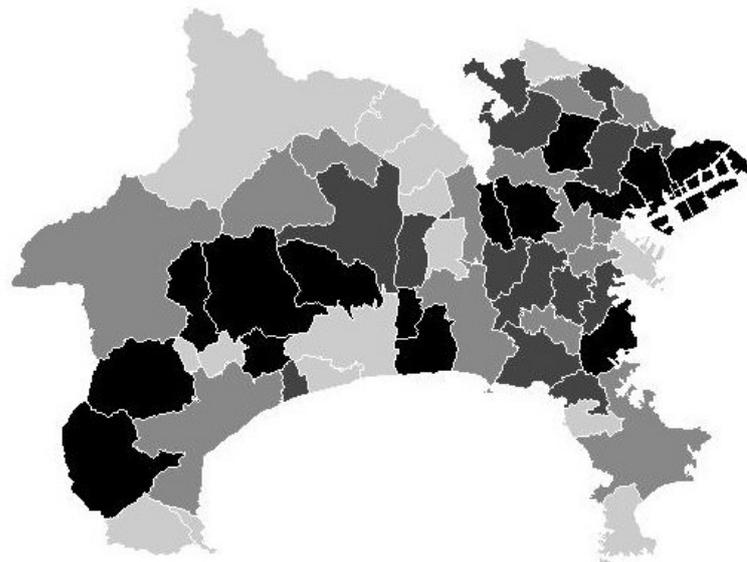
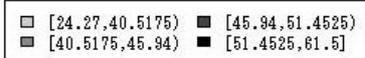


図11-12 膀胱（男）

年齢調整り患率 2019-2020年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2019-2020年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

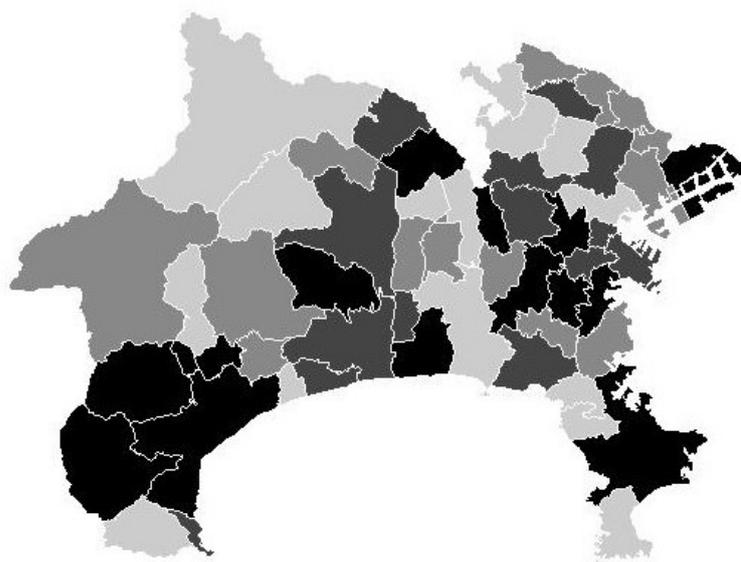
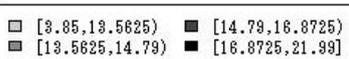


図11-13 乳房（女）

年齢調整り患率 2019-2020年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2019-2020年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

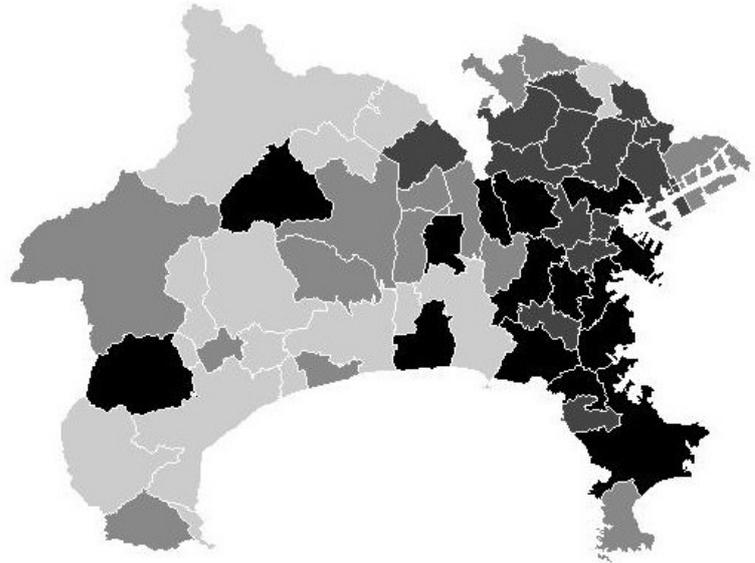


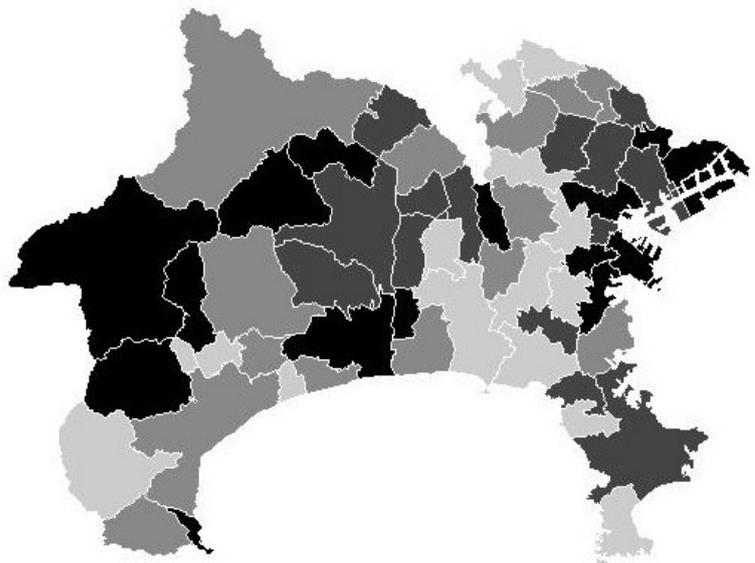
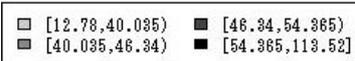
図11-14 子宮（女）

年齢調整り患率 2019-2020年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2019-2020年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。



### 3. 経年の観察

#### (1) 年齢調整り患率（人口10万対）の年次推移

がんのり患の状況について、神奈川県悪性新生物登録事業が発足した昭和45年から今回集計した令和2年までを、り患の多い部位について経年的に図示した（図12）。部位別にみると胃のり患率の減少がみられている。胃では男女それぞれ昭和45年のり患率は86.6、48.4であったが、令和2年は33.1、12.6に減少している（付表25）。逆に、増加傾向を示している部位は、男では肺、結腸、直腸、前立腺、女では乳房、子宮、結腸、肺、直腸であった（付表25）。

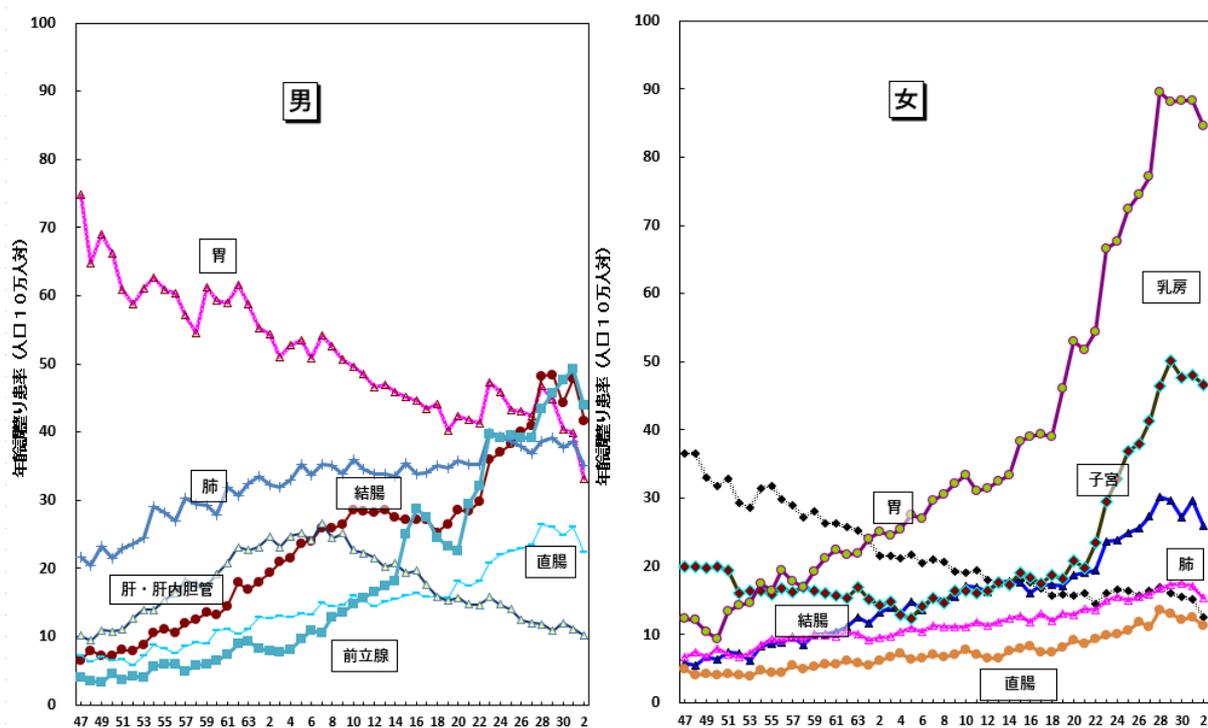


図12 年齢調整り患率の年次推移

#### (2) 年齢階級別のがんり患率の年次推移

昭和60年から令和2年までの35年間の12の期間（昭和60～62年、昭和63～平成2年、平成3～5年、平成6～8年、平成9～11年、平成12～14年、平成15～17年、平成18～20年、平成21～23年、平成24～26年、平成27～29年、平成30～令和2年）に分けて計算した。年齢階級は0～14歳、15～39歳、40～64歳、65歳以上の4グループに分けて年次変化をみた（図13）。

部位別では胃や肝・肝内胆管で男女の減少がみられるが、口腔・咽頭、結腸、直腸、肺、膀胱、皮膚、前立腺、乳房、卵巣に増加がみられる。年齢階級別にみると、り患率が高いのは65歳以上の世代であるが、子宮においてり患率が高いのは40～64歳の世代である。

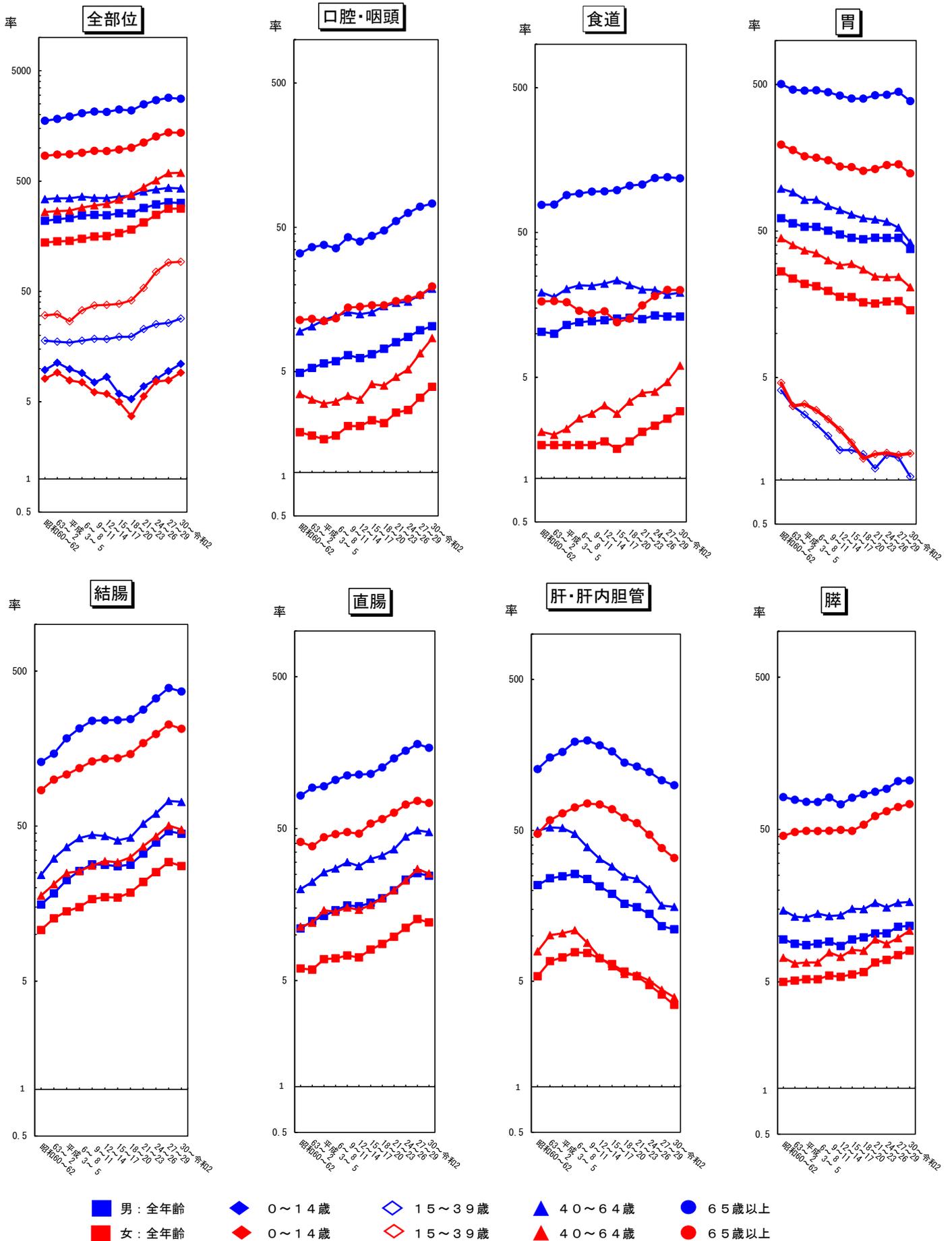


図13-1 主要部位別 年齢階級別年齢調整り患率の比較

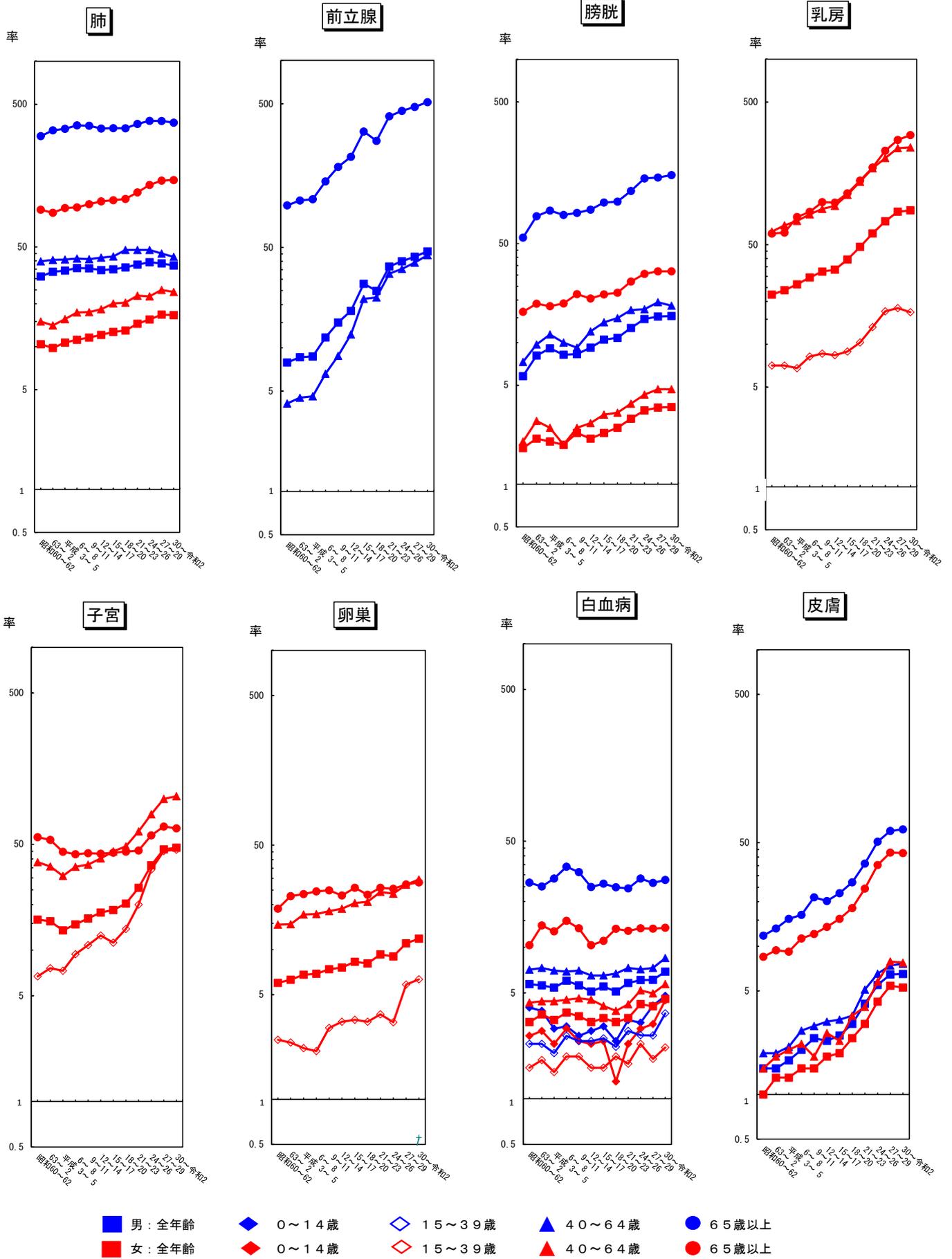


図13-2 主要部位別 年齢階級別年齢調整り患率の比較

#### 4.登録の精度（届出と診断の精度）

地域がん登録（神奈川県悪性新生物登録事業）では、県下の各医療機関からの届出票と、死亡票からの届出漏れ患者の登録により、り患数を算定している。この算定されたり患数が、当該地域の真のり患数をどの程度反映しているかを示す指標の一つとして、り患数に対する死亡票からのみ登録された患者の割合（以下「死亡票のみの割合」という。）が用いられている。また、届出された資料の診断の精度の指標として、届出り患数またはり患数に対して、診断方法としての組織診断が実施された患者数の割合（以下「組織診の割合」という。）が用いられている。死亡票の割合が低いほど「地域がん登録」で算出した、り患率の信頼性が高く、組織診の割合が高いほど診断の精度が高くなる。

2020年の登録の精度は、死亡票のみの割合が4.7%であり、組織診・細胞診の割合（届出り患数に対する）は91.7%であった（表6-1）。2019年の精度と比較すると、死亡票のみの割合は4.3%から4.7%となった。なお、過去5年間をみると、死亡票のみの割合は良くなりつつある。地域がん登録の目標として、死亡票のみの割合を20%以下にすることが望まれているが、神奈川県では2010年より20%以下となり、2013年には県下全域で達成した。

県下では、最も精度が高い地域が湘南西部3.3%、次いで横浜西部が3.9%であった。

登録の精度を主要部位別にみると、死亡票のみの割合が低い部位は皮膚0.9%、子宮1.3%、甲状腺1.9%であり、組織診・細胞診の割合が高い部位は子宮99.3%、皮膚98.7%、乳房98.3%の順であった。逆に、死亡票のみの割合が高いのは肝・肝内胆管12.4%、脳11.9%であり、組織診・細胞診の割合が低いのは、肝・肝内胆管39.6%であった（表6、図15）。

二次保健医療圏別にみると、死亡票のみの割合が低いのは湘南西部3.3%、次いで横浜西部が3.9%であり届出の精度は非常に良くなってきた。逆にこの割合が高かったのは県西7.4%であった。組織診・細胞診の割合は全地域91.7%、とりわけ横浜南部93.1%、川崎北部92.9%が良好であった（表6-2）。市区町村別は図16及び付表10、11に示した。なお、地域別の精度の違いを検討する際には、患者の居住地域と診断・届出医療機関の所在地域とが異なる場合があることを注意しておく必要がある。

表6 登録の精度(届出と診断の精度)

1.主要部位別

2020年

部 位	ICD-10	り患数(I)	届出り患数(R)	死亡票のみ の数(D)	組織診・細胞 診の実施数 (H)	(I)に対する死亡票 のみの割合(D/I) (%)	(R)に対する組織診・ 細胞診の割合(H/R) (%)
<b>全部位</b>	<b>C00-C96-D06</b>	<b>67,672</b>	<b>64,496</b>	<b>3,176</b>	<b>59,172</b>	<b>4.7</b>	<b>91.7</b>
口腔・咽頭	C00-C14	1,564	1,506	58	1,442	3.7	95.7
食道	C15	1,907	1,839	68	1,795	3.6	97.6
胃	C16	6,829	6,477	352	6,327	5.2	97.7
結腸	C18	8,966	8,645	321	8,326	3.6	96.3
直腸	C19-C20	3,802	3,702	100	3,611	2.6	97.5
肝・肝内胆管	C22	1,968	1,724	244	683	12.4	39.6
胆のう・胆管	C23-C24	1,309	1,180	129	887	9.9	75.2
膵	C25	2,935	2,662	273	1,848	9.3	69.4
喉頭	C32	293	286	7	278	2.4	97.2
肺	C33-C34	7,430	6,885	545	5,682	7.3	82.5
骨	C40-C41	58	53	5	50	8.6	94.4
皮膚	C43-C44	1,729	1,714	15	1,692	0.9	98.7
乳房	C50	7,521	7,346	175	7,223	2.3	98.3
子宮	C53-C55-D06	3,002	2,962	40	2,941	1.3	99.3
卵巣	C56	879	826	53	794	6.0	96.1
前立腺	C61	6,285	6,154	131	5,793	2.1	94.1
腎	C64	1,188	1,131	57	978	4.8	86.5
膀胱	C67	2,746	2,671	75	2,550	2.7	95.5
脳	C71	328	289	39	239	11.9	82.8
甲状腺	C73	805	790	15	776	1.9	98.2
白血病	C91-C95	803	745	58	727	7.2	97.6

2.二次保健医療圏別

地 域	り患数(I)	届出り患数(R)	死亡票のみ の数(D)	組織診・細胞 診の実施数 (H)	(I)に対する死亡票 のみの割合(D/I) (%)	(R)に対する組織 診・細胞診の割合 (H/R)(%)
<b>神奈川県</b>	<b>67,672</b>	<b>64,496</b>	<b>3,176</b>	<b>59,172</b>	<b>4.7</b>	<b>91.7</b>
横浜市	30,476	27,041	1,184	24,910	3.9	92.1
横浜北部	10,413	9,969	444	9,160	4.3	91.9
横浜西部	8,799	8,452	347	7,724	3.9	91.4
横浜南部	9,013	8,620	393	8,027	4.4	93.1
川崎市	10,296	8,788	547	8,059	5.3	91.7
川崎北部	4,855	4,535	320	4,212	6.6	92.9
川崎南部	4,480	4,253	227	3,844	5.1	90.4
横須賀・三浦	6,327	6,047	280	5,503	4.4	91.0
湘南東部	4,953	4,751	202	4,384	4.1	92.3
湘南西部	4,793	4,634	159	4,258	3.3	91.9
県 央	6,252	5,999	253	5,512	4.0	91.9
相 模 原	4,989	4,644	345	4,280	6.9	92.2
県 西	2,798	2,592	206	2,266	7.4	87.4

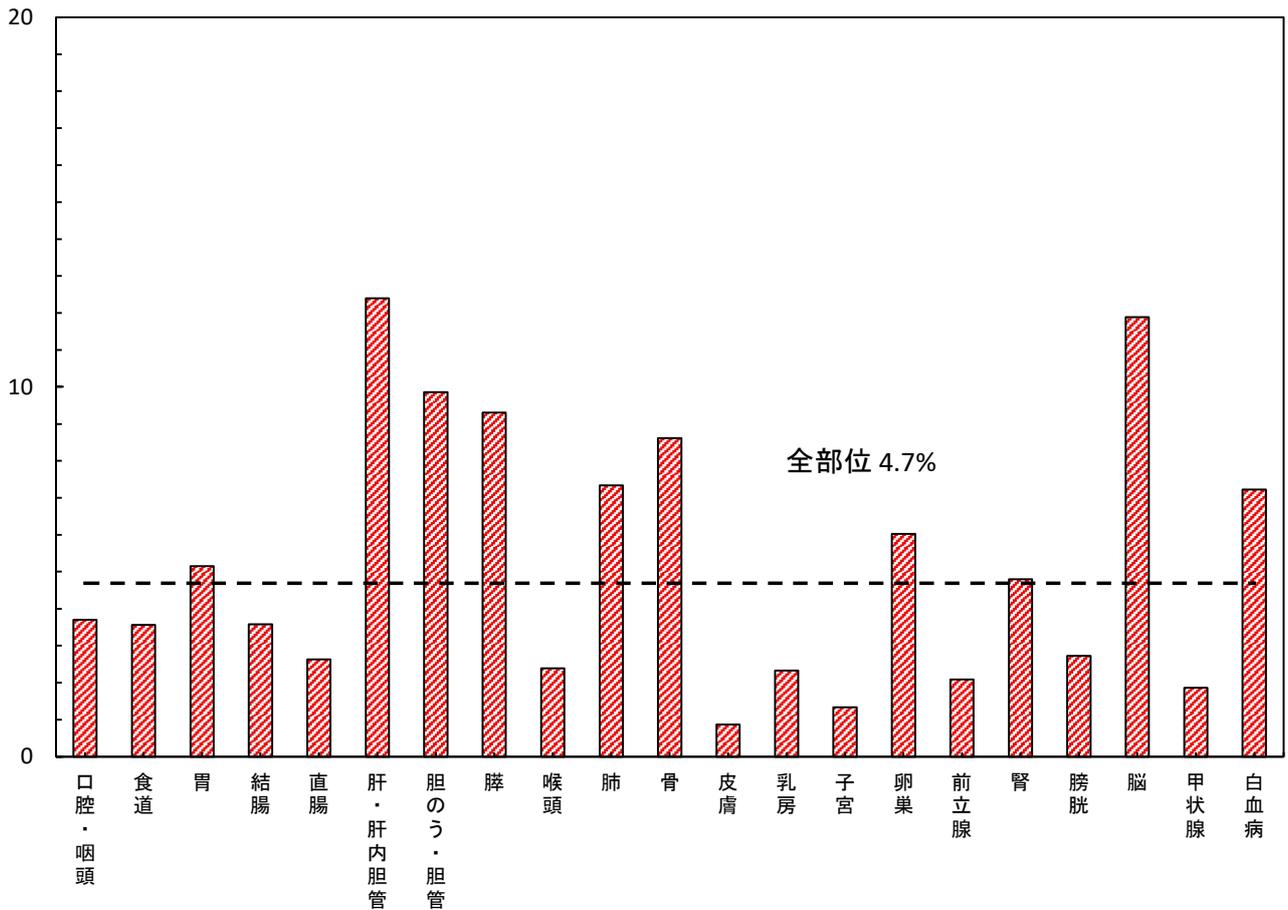


図15 り患数に対する死亡小票のみの割合(部位別)－2020年

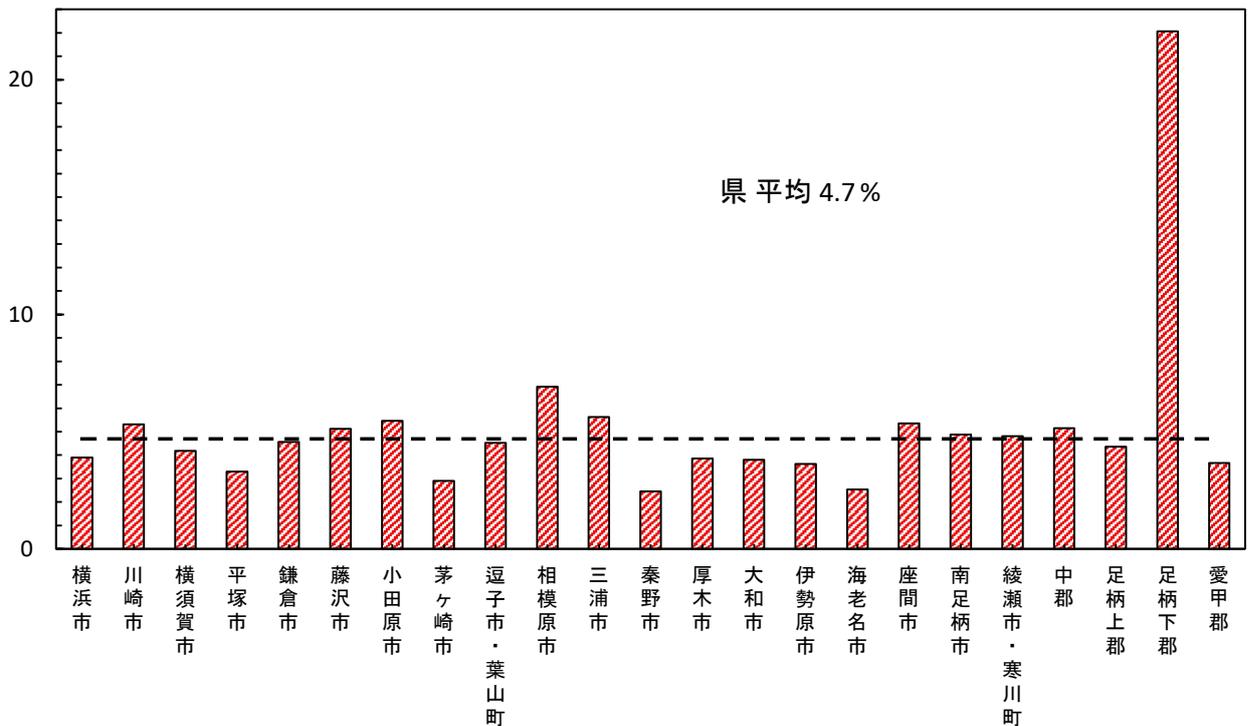


図16 り患数に対する死亡小票のみの割合(市町村別)－2020年

## 5. 受診の動機

### (1) 検診で発見されたがん

検診で発見され受診した患者は、届出された 64,496 人中 10,860 人（16.8%）であった。検診経由の者を主要部位別にみたものが表 7 である。

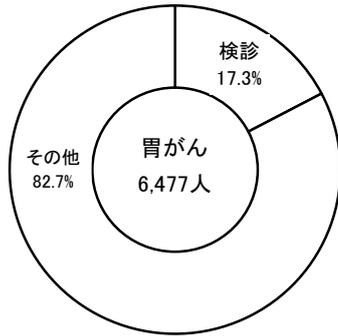
対策型がん検診としておこなわれている部位で、胃がん検診、大腸がん（結腸・直腸）検診、肺がん検診、乳がん検診、子宮がん（頸部）検診において発見されたがんの割合を図 17 に示した。検診で発見されたがんの数が最も多いのは大腸がんであり、2,667 人であった。二次保健医療圏別にこれらをみたものが表 8 である。各地域ともに、検診経由の割合の高いものは子宮頸がんである。地域間の比較をする場合には、各地域の届出状況、検診実施状況を併せてみる必要がある。

部 位	ICD-10	届出り患者数(人)	検診経由(人)	検診割合(%)
<b>全部位</b>	<b>C00-C96・D06</b>	<b>64,496</b>	<b>10,860</b>	<b>16.8</b>
口腔・咽頭	C00-C14	1,506	29	1.9
食道	C15	1,839	250	13.6
胃	C16	6,477	1,122	17.3
結腸	C18	8,645	1,900	22.0
直腸	C19-C20	3,702	767	20.7
肝・肝内胆管	C22	1,724	76	4.4
胆のう・胆管	C23-C24	1,180	51	4.3
膵	C25	2,662	147	5.5
喉頭	C32	286	3	1.0
肺	C33-C34	6,885	1,118	16.2
骨	C40-C41	53	2	3.8
皮膚	C43-C44	1,714	3	0.2
乳房	C50	7,346	1,835	25.0
子宮頸部	C53・D06	1,791	612	34.2
子宮体部	C54	1,167	119	10.2
卵巣	C56	826	51	6.2
前立腺	C61	6,154	2,068	33.6
腎	C64	1,131	151	13.4
膀胱	C67	2,671	107	4.0
脳	C71	289	5	1.7
甲状腺	C73	790	114	14.4
白血病	C91-C95	745	79	10.6

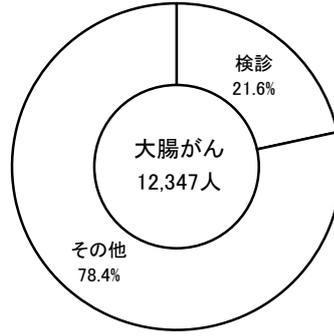
表 7 部位別にみた検診経由患者数とその割合（主要部位）

地 域	届出り患者数 (R)	集検経由数	胃			大腸(結腸・直腸)			肺			乳房			子宮頸部		
			届出り患者数	検診経由	%	届出り患者数	検診経由	%	届出り患者数	検診経由	%	届出り患者数	検診経由	%	届出り患者数	検診経由	%
神奈川県	64,496	10,860	6,477	1,122	17.3	12,347	2,667	21.6	6,885	1,118	16.2	7,346	1,835	25.0	1,791	612	34.2
横浜市	27,041	4,273	2,587	368	14.2	5,340	1,063	19.9	2,813	370	13.2	3,200	748	23.4	733	254	34.7
横浜北部	9,969	1,621	868	114	13.1	1,929	352	18.2	1,019	133	13.1	1,292	316	24.5	285	106	37.2
横浜西部	8,452	1,337	799	110	13.8	1,677	343	20.5	915	125	13.7	938	226	24.1	220	73	33.2
横浜南部	8,620	1,315	920	144	15.7	1,734	368	21.2	879	112	12.7	970	206	21.2	228	75	32.9
川崎市	8,788	1,542	862	143	16.6	1,589	375	23.6	963	162	16.8	1,021	298	29.2	336	134	39.9
川崎北部	4,535	854	410	76	18.5	822	204	24.8	480	93	19.4	569	175	30.8	154	55	35.7
川崎南部	4,253	688	452	67	14.8	767	171	22.3	483	69	14.3	452	123	27.2	182	79	43.4
横須賀・三浦	6,047	881	541	74	13.7	1,140	241	21.1	691	102	14.8	714	147	20.6	115	29	25.2
湘南東部	4,751	905	493	111	22.5	826	232	28.1	491	100	20.4	533	137	25.7	115	39	33.9
湘南西部	4,634	803	536	92	17.2	910	184	20.2	492	110	22.4	451	110	24.4	130	43	33.1
県 央	5,999	1,173	650	144	22.2	1,177	244	20.7	647	124	19.2	627	190	30.3	169	67	39.6
相 模 原	4,644	785	561	152	27.1	867	208	24.0	499	82	16.4	537	131	24.4	141	35	24.8
県 西	2,592	498	247	38	15.4	498	120	24.1	289	68	23.5	263	74	28.1	52	11	21.2

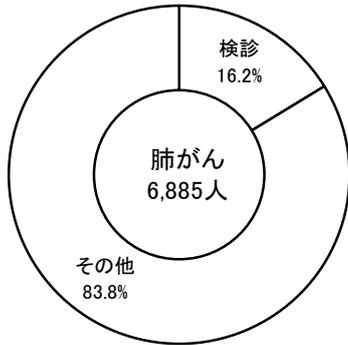
表 8 二次医療圏別にみた検診経由数とその割合（胃・大腸・肺・乳房・子宮頸部）



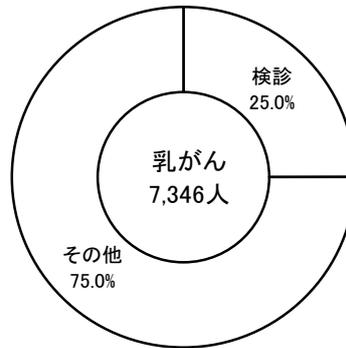
胃		人
検診	1,122	
その他	5,355	
合計	6,477	



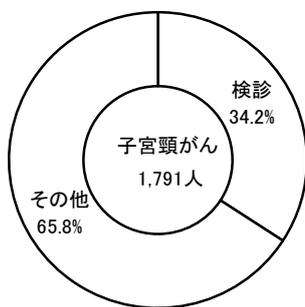
大腸		人
検診	2,667	
その他	9,680	
合計	12,347	



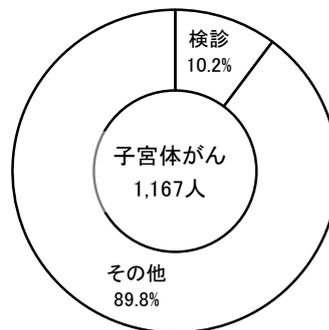
肺		人
検診	1,118	
その他	5,767	
合計	6,885	



乳房		人
検診	1,835	
その他	5,511	
合計	7,346	



子宮頸		人
検診	612	
その他	1,179	
合計	1,791	



子宮体部		人
検診	119	
その他	1,048	
合計	1,167	

図17 検診で発見されたがん -届出り患者- 2020年

## 6. 診断・治療の状況（部位・地域・病院規模）

### （1）診断方法

地域がん登録（悪性新生物登録事業）では、がんの診断方法（X線、内視鏡、細胞診、組織診、病理解剖、画像診断）について調査している。

死亡票のみの者の診断方法や治療方法は明確でない場合が多いため、届出患者 64,496 人を対象として調査した。

主要部位別および地域別の診断方法について集計したものが（付表 12）である。組織診でがんと確かめられた患者は、届出患者のうち 90.4%であった。次いで画像診断、細胞診の割合が高かった。剖検（病理解剖）による確認は 0.4%であった。組織診の割合の低いものは肝・肝内胆管 38.6%、膵 62.8%である。剖検（病理解剖）の割合が高いものは、脳および食道がいずれも 1.0%、次いで肝・肝内胆管が 0.9%であった。

組織診では皮膚が 99.5%、子宮 99.3%、乳房 99.1%と高い割合を示している。

市区町村ごとの組織診・細胞診の件数は（付表 11）にのせた。

### （2）治療の状況

届出された患者がどのような治療を受けたのか表 9 に主要部位別・二次保健医療圏別に示した。治療内容は、手術療法、放射線療法、化学療法とこれらの併用療法、体腔鏡的切除、内視鏡的切除、対症療法に分類した。

手術のみ受けた患者は、届出された患者の 27.2%であった。これを主要部位でみると、皮膚 88.4%、乳房 83.0%、甲状腺 79.4%が高い割合を示している。放射線療法は喉頭 58.8%、脳 56.2%、乳房 35.4%が高く、化学療法で最も高いのは白血病 70.3%である。

併用療法では、手術療法と化学療法の併用療法が届出された患者の 5.8%を占めている。主要部位で最も割合が高いのは卵巣 46.7%であった。

また、二次保健医療圏別に観察すると、手術を受けた患者の割合は横浜北部 28.3%で最も高かった。

表9 治療の状況(届出り患者に対する割合)(%)

1.主要部位別

2020年

部 位	ICD-10	届出り患者	手術療法 計(S)	放射線治 療(R)	化学療法 (C)	手術+放射 線療法(S +R)のみ	手術+化学 療法(S+ C)のみ	放射線+ 化学療法 (R+C)の み	手術+放射 線+化学療 法(S+R+C のみ)	体腔鏡 的切除	内視鏡 的切除	对症 療法	治療 不明
<b>全部位</b>	<b>C00-C96・D06</b>	<b>64,496</b>	<b>27.2</b>	<b>12.2</b>	<b>25.8</b>	<b>3.3</b>	<b>5.8</b>	<b>3.0</b>	<b>1.7</b>	<b>19.2</b>	<b>15.5</b>	<b>13.2</b>	<b>0.0</b>
口腔・咽頭	C00-C14	1,506	42.4	31.5	26.7	4.5	1.8	17.5	3.4	0.6	7.4	14.7	-
食道	C15	1,839	5.8	24.7	33.7	0.1	2.6	16.7	0.5	12.0	31.5	16.3	-
胃	C16	6,477	19.5	1.0	18.3	0.0	7.1	0.4	0.0	17.1	35.9	12.1	-
結腸	C18	8,645	16.1	0.2	18.2	0.1	4.5	0.1	-	37.8	36.3	7.4	-
直腸	C19-C20	3,702	10.3	4.4	26.0	0.1	3.2	3.1	0.3	43.4	32.3	8.8	0.1
肝・肝内胆管	C22	1,724	12.9	6.2	29.8	0.1	1.7	1.8	-	7.1	-	44.9	0.1
胆のう・胆管	C23-C24	1,180	31.4	1.3	24.8	0.2	7.0	0.2	0.3	5.8	0.6	37.1	-
膵	C25	2,662	21.8	3.8	49.3	0.1	13.3	2.3	0.5	2.4	0.1	32.0	0.1
喉頭	C32	286	19.4	58.8	23.5	3.8	0.4	19.7	2.8	0.7	12.5	17.0	-
肺	C33-C34	6,885	4.5	18.8	34.5	0.2	1.3	8.9	0.4	30.9	0.1	18.6	0.0
骨	C40-C41	53	38.9	31.5	14.8	7.4	7.4	3.7	-	-	1.9	24.1	-
皮膚	C43-C44	1,714	88.4	2.6	1.5	1.1	0.6	0.6	0.1	0.1	0.2	4.1	-
乳房	C50	7,346	83.0	35.4	28.1	24.8	13.8	0.3	9.5	0.1	0.2	2.8	-
子宮	C53-C55・D06	2,962	57.9	9.7	21.4	0.8	10.9	4.9	1.8	21.5	1.9	6.8	-
卵巣	C56	826	78.3	0.6	54.1	-	46.7	0.4	0.2	10.3	0.1	8.1	-
前立腺	C61	6,154	1.4	21.1	1.7	0.1	0.0	0.3	0.0	25.9	1.1	6.5	-
腎	C64	1,131	12.0	2.1	8.6	-	1.4	1.1	0.4	62.2	0.1	8.2	-
膀胱	C67	2,671	5.0	3.2	42.0	0.1	2.7	1.2	0.1	5.3	86.5	21.8	-
脳	C71	289	68.6	56.2	57.2	4.5	6.2	5.9	44.1	1.4	0.7	7.9	-
甲状腺	C73	790	79.4	9.5	1.9	9.0	0.8	-	0.3	0.6	0.4	8.4	-
白血病	C91-C95	745	-	5.3	70.3	-	-	5.2	-	-	-	22.2	-

2.二次保健医療圏別

地 域	届出り患者	手術療法 計(S)	放射線治 療(R)	化学療法 (C)	手術+放射 線療法(S +R)のみ	手術+化学 療法(S+ C)のみ	放射線+ 化学療法 (R+C)の み	手術+放射 線+化学療 法(S+R+C のみ)	体腔鏡 的切除	内視鏡 的切除	对症 療法	治療 不明
<b>神奈川県</b>	<b>64,496</b>	<b>27.2</b>	<b>12.2</b>	<b>25.8</b>	<b>3.3</b>	<b>5.8</b>	<b>3.0</b>	<b>1.7</b>	<b>19.2</b>	<b>15.5</b>	<b>13.2</b>	<b>0.0</b>
横浜市	27,041	27.5	13.4	25.8	3.9	5.7	3.1	1.8	19.2	15.8	13.0	0.0
横浜北部	9,969	28.3	13.3	25.7	4.5	5.8	2.9	1.7	19.6	14.2	15.0	0.0
横浜西部	8,452	27.5	13.9	25.9	3.3	6.0	3.3	2.1	18.7	15.6	10.8	-
横浜南部	8,620	26.7	13.2	25.9	3.6	5.3	3.2	1.8	19.2	17.7	12.8	0.0
川崎市	8,788	26.4	10.8	25.7	2.9	5.7	2.7	1.5	20.0	15.2	12.3	-
川崎北部	4,535	26.8	11.1	27.0	3.2	5.4	2.7	1.6	22.5	14.8	12.0	-
川崎南部	4,253	26.1	10.5	24.4	2.6	6.1	2.8	1.3	17.4	15.6	12.7	-
横須賀・三浦	6,047	26.6	11.5	25.8	3.1	4.9	2.5	1.6	18.6	14.9	13.5	-
湘南東部	4,751	27.9	13.2	26.5	2.8	7.1	3.6	1.8	16.9	16.7	18.6	-
湘南西部	4,634	25.8	10.8	28.6	3.0	6.4	3.1	1.2	21.4	14.0	16.3	0.0
県央	5,999	26.7	11.8	24.5	2.7	4.9	3.4	1.1	19.6	13.7	11.7	0.0
相模原	4,644	25.6	12.9	26.3	3.1	5.6	3.3	2.1	17.4	16.8	11.6	0.0
県西	2,592	26.5	8.5	25.5	1.7	6.7	2.1	1.4	15.9	15.1	11.3	0.0

### (3) 受療医療機関

届出り患者の受療した病院・診療所について診断、治療、その後の転帰までも含めた延べ受診者数を医療機関の規模別にまとめた（表10）。

149床以下を小規模病院、150－499床を中規模病院、500床以上を大規模病院とした。専門病院はがん専門の病院である。

図18に全部位、胃、肺、結腸、乳房、子宮の病院規模別受療状況を示した。

全国がん登録開始に伴い、県外在住者の県内医療機関受療が届出されるようになった為、付表13について、県内在住者、県外在住者を分け集計した。

付表13-1に県内在住者の主要部位と二次保健医療圏別・病院規模別の受療状況を示した。

大学病院では甲状腺57.6%、喉頭55.0%、口腔・咽頭54.2%の受療割合が高く、がん専門病院では骨25.6%、膝12.1%の受療割合が高い。大規模病院では喉頭34.6%、皮膚31.3%の受療割合が高い。

地域別にみると大規模病院は横須賀・三浦、大学病院は横浜南部、がん専門病院は横浜西部の受療割合が高い。患者の受療には、患者の居住地域や医療機関の設置状況、交通との関係があるとみられる。

付表13-2に県外在住者について主要部位別・病院規模別の受療の状況を示した。

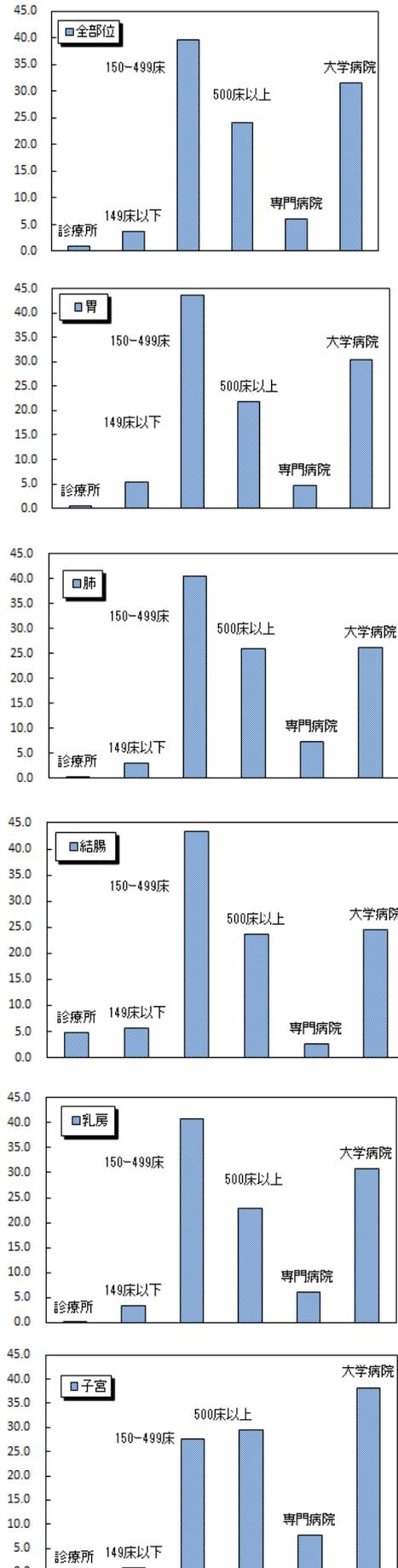
大学病院では甲状腺、腎、皮膚の受療割合が高く、大規模病院では脳、子宮の割合が高くなっている。

表10 病院規模別受診割合の比較（%）

病院規模	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31 / 令和元年	令和2年
診療所	1.6	1.4	1.3	1.0	0.9	1.0
149床以下	1.0	4.0	4.2	3.8	3.6	3.7
150-499床	33.8	37.8	38.1	39.1	39.5	39.6
500床以上	28.1	25.7	25.7	25.9	24.6	24.1
専門病院	5.8	5.7	5.5	5.3	5.7	6.0
大学病院	35.8	32.0	30.6	30.3	31.8	31.5
県外	1.6	-	-	-	-	-

平成28年以降は、全国がん登録開始に伴い県外在住者の県内医療機関受療の届出を別集計とした

図18 病院規模別・受療状況（%）2020年



## 7. 5年相対生存率

がん統計では患者の予後を示す指標として、届出し患者の実測生存率（累積生存率）及び相対生存率を算出している。相対生存率は実測生存率を期待生存率で割ったものである。生存率の算定にあたっては、登録患者についての生死の確認をおこなっていく必要がある。

平成18年度まで人口動態調査死亡票の照合による死亡の確認のみであったが、平成19年度より神奈川県的全市区町村へ住民票照会を実施し、生存確認や居住確認の追跡調査が実施できている（付表15）。追跡調査は、平成24年から住民基本台帳ネットワークシステムとの照合が使用できるようになり、生存確認調査の省力化がはかれるようになった。

主要部位の5年相対生存率について平成24年、25年、26年、27年、28年に診断され、医療機関から届出された患者について表11にのせた。平成24年から28年までを比べてみると、男女ともに結腸など生存率が少しずつ高くなっている部位があるいっぽう、最も生存率が低い部位は膵である。

平成28年診断患者の5年相対生存率をみると、高い部位は男性では前立腺、皮膚ともに96.2%、甲状腺93.1%、女性では皮膚95.3%、甲状腺93.3%、乳房91.5%である。逆に低い部位は男性では膵12.4%、胆のう・胆管25.5%、脳30.2%であり、女性では膵13.9%、胆のう・胆管26.9%、肝・肝内胆管34.1%である。

表11 部位別5年相対生存率（%）

		ICD-10	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
性別	<b>全部位</b>	<b>C00-C96</b>	<b>64.6</b>	<b>64.9</b>	<b>65.6</b>	<b>67.8</b>	<b>67.7</b>
	口腔・咽頭	C00-C14	56.3	59.3	57.0	63.1	65.0
	食道	C15	45.7	45.0	44.8	47.0	49.5
	胃	C16	67.0	66.1	64.9	67.9	67.8
	結腸	C18	78.0	78.7	80.8	81.7	82.3
	直腸	C19-C20	74.5	74.5	76.9	76.3	78.2
	肝・肝内胆管	C22	35.3	33.8	37.0	40.2	36.4
	胆のう・胆管	C23-C24	29.3	28.9	29.3	30.0	25.5
	膵	C25	11.0	9.1	11.9	13.2	12.4
	喉頭	C32	79.9	79.9	83.1	83.3	81.0
	肺	C33-C34	30.1	31.9	30.2	34.5	33.1
	骨	C40-C41	52.8	68.8	83.1	53.1	65.8
	皮膚	C43-C44	93.8	96.2	95.2	97.3	96.2
	前立腺	C61	98.0	96.4	96.8	100.1	96.2
	腎	C64	79.4	78.2	82.6	82.4	79.4
	膀胱	C67	84.5	84.9	83.4	86.1	84.7
	脳	C71	33.6	26.5	27.3	33.3	30.2
	甲状腺	C73	89.9	92.4	93.4	93.9	93.1
白血病	C91-C95	43.1	46.4	44.3	52.5	50.8	
性別	<b>全部位</b>	<b>C00-C96</b>	<b>71.2</b>	<b>71.8</b>	<b>72.3</b>	<b>73.5</b>	<b>73.4</b>
	口腔・咽頭	C00-C14	68.9	65.7	71.0	69.8	69.6
	食道	C15	55.4	52.3	46.1	54.8	53.1
	胃	C16	67.1	67.0	66.8	66.4	67.9
	結腸	C18	77.1	76.3	77.8	79.0	78.7
	直腸	C19-C20	76.9	79.7	78.4	78.5	78.5
	肝・肝内胆管	C22	34.3	33.6	34.6	37.0	34.1
	胆のう・胆管	C23-C24	21.4	24.5	21.9	28.9	26.9
	膵	C25	10.8	12.1	11.3	15.2	13.9
	喉頭	C32	91.1	87.8	86.0	74.7	81.2
	肺	C33-C34	49.3	49.0	50.0	52.4	51.6
	骨	C40-C41	58.5	58.1	66.8	84.6	57.7
	皮膚	C43-C44	91.5	97.3	95.5	98.5	95.3
	乳房	C50	91.4	91.2	91.2	92.4	91.5
	子宮	C53-C55	77.5	78.4	78.7	78.0	78.4
	卵巣	C56	59.4	61.9	64.8	60.3	68.5
	腎	C64	81.0	78.4	76.2	77.2	78.7
	膀胱	C67	78.9	76.1	81.6	79.9	73.4
脳	C71	40.7	33.4	31.6	38.2	37.4	
甲状腺	C73	96.5	91.9	95.0	95.1	93.3	
白血病	C91-C95	51.0	49.9	53.8	57.3	50.3	